

# 地域対話の振り返り

## ＝資料編＝

— 寿都町、神恵内村における「対話の場」の実践から —

2025年

原子力発電環境整備機構

## 目次

1. 「対話の場」の開催概要
  - 1.1 寿都町「対話の場」
  - 1.2 神恵内村「対話の場」
  
2. 振り返りの目的と進め方
  - 2.1. 振り返りの目的
  - 2.2. 振り返りの進め方
  - 2.3. 検討の経緯
  - 2.4. 第三者専門家
  - 2.5. インタビューの実績
    - (1) 実施概要
    - (2) 実績
  
3. インタビューによる振り返り：対話の場に参加された方
  - 3.1. 場づくりについて
  - 3.2. 議題の設定
  - 3.3. 形式
  - 3.4. 参加者の構成
  - 3.5. 開催頻度・タイミング
  - 3.6. 情報提供
  - 3.7. 進行方法・ファシリテーター
  - 3.8. 公開制
  - 3.9. 結果の周知
  - 3.10. 満足度・相互作用
  - 3.11. 設置者、国・NUMOの関与のあり方
  - 3.12. 地域における位置づけ
  - 3.13. その他（視察・見学などの活動等）
  
4. インタビューによる振り返り：対話の場に出席経験のない方
  - 4.1. 地域における位置づけ
  - 4.2. 結果のお伝え
  - 4.3. 公開制
  - 4.4. 設置者、国・NUMOの関与のあり方
  - 4.5. その他視察等
  - 4.6. その他（寿都町の将来に向けた勉強会）
  - 4.7. アンケートによる自由記述

5. ファシリテーターによる振り返りのまとめ
6. インタビューによる振り返りを踏まえたNUMOによる受け止め
7. 第三者専門家からの助言・アドバイスの記録
8. インタビューの過程で生じた問題について

## 1. 「対話の場」の開催概要

### 1.1. 寿都町「対話の場」

NUMOは、北海道寿都町において2020年11月より文献調査を開始し、翌年2021年4月14日、第1回「対話の場」が開催されました。「対話の場」は、参加者の意向を尊重しながら運営され、これまで計17回（2024年6月現在）開催されています。

#### （1）「対話の場」

##### ① 「対話の場」の設置

「対話の場」は、主催を寿都町として、NUMOと共同で事務局を運営しています。「対話の場」の進行役には、参加者の意見を踏まえて決められた会則に則り、ファシリテーターを置いています。

<ファシリテーター>※敬称略

竹田宜人（北海道大学大学院 工学研究院客員教授）

#### 寿都町対話の場会則

（目的）

##### 第2条

本会は、高レベル放射性廃棄物の地層処分事業（以下、「地層処分事業」という。）に係る文献調査が令和2年11月に開始されたことを契機とし、町の将来に向けたまちづくりの観点も踏まえ、一人ひとりの地層処分事業に対する考え方や向き合い方の検討に資するよう、関連する情報をもとに、地層処分事業への賛否に関わらず、会員間において自由で率直な議論を深めていただくことを目的とする。

##### ② 構成員

「対話の場」の参加者は、町内の有識者を町が指名する形で、町議会議員ならびに産業団体等の代表者、計17名の会員で構成されています。



寿都町「対話の場」の様子

### ③ 取り上げた議題

回数	日付	主な議題
1	2021/4/14	・ 会則について
2	2021/6/25	・ 会則について ・ 地層処分について思うこと
3	2021/7/27	・ 地層処分事業
4	2021/11/10	・ 地層処分事業
5	2021/12/14	・ 視察報告
6	2022/1/19	・ 町民の皆さまに地層処分を知っていただくための取組 ・ 地層処分の安全確保の考え方
7	2022/2/16	・ 放射線の基礎知識
8	2022/3/15	・ 文献調査の進捗状況 ・ 町民の皆さまに分かりやすいパンフレット
9	2022/4/26	・ 六ヶ所村の歩み
10	2022/5/27	・ エネルギー政策について
11	2022/7/21	・ 文献調査の進捗状況
12	2022/9/21	・ 海外先進地の状況について
13	2022/11/15	・ 将来の町の在り姿について
14	2022/12/19	・ 将来の町の在り姿について ・ 文献調査の進捗状況
15	2023/2/21	・ 将来の町の在り姿について ・ 文献調査の進捗状況
16	2023/5/9	・ 将来の町の在り姿について ・ 文献調査の進捗状況
17	2023/9/5	・ 文献調査の振り返り ・ 経済社会的観点からの検討の考え方（案）

### ④ 使用した資料

「対話の場」で使用した資料等は、NUMOホームページにおいて、公開していません。

[https://www.numo.or.jp/chisoushobun/survey\\_status/suttu/taiwa.html](https://www.numo.or.jp/chisoushobun/survey_status/suttu/taiwa.html)

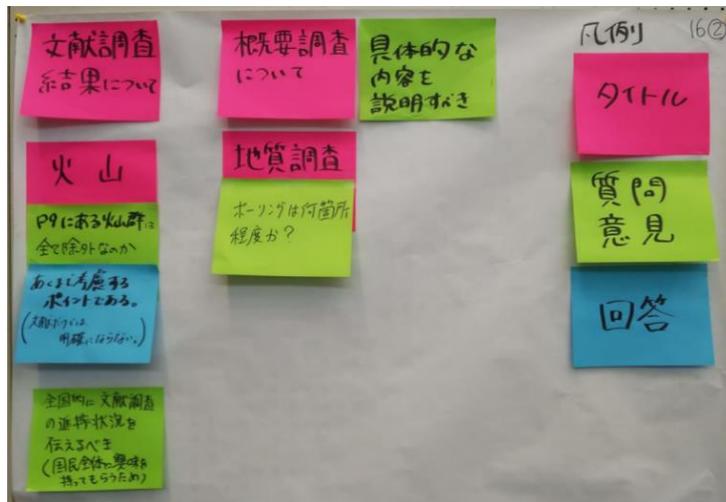
⑤ 公開方法

参加者による自由闊達な意見交換と場の透明性の確保の両立を図ることに配慮し、参加者の了承を得た部分をインターネットでライブ配信しました。

<公開のルール>

- ▶ ライブ配信(意見交換部分は非公開、後日個人の発言に配慮して処理し動画を公開)
- ▶ 非公開部分のやり取りは、記録者が付箋に書き留め、模造紙上で整理し、当日終了後ファシリテーターによる公開の振り返りで説明
- ▶ 模造紙は、交流センター及びNUMOホームページで公開
- ▶ 後日、会議録をNUMOホームページで公開
- ▶ 傍聴不可

○対話の記録(模造紙上での整理)の例



⑥ 結果のお伝え

「対話の場」の話し合いの結果は、事務局が広報チラシを作成し町の広報誌への折込で周知を実施している他、寿都町の地元ケーブルテレビにて当日の録画映像や広報チラシを用いた静止画を後日放映して町民の皆さまにお知らせしています。

○結果のお伝えの例

「寿都町対話の場」について (第13~16回)

(1) 「将来のまちのあり姿」をテーマにした自由討論

(2) 文献調査の進捗状況

(1) 「将来のまちのあり姿」をテーマに、自由討論が行われました

これまで4回にわたり、会員同士によるグループ討論が行われてきました。以下は、「将来のまちのあり姿」について、会員から出されたご意見(ビジョン)を取りまとめたものです。

**将来のまちのあり姿** #進捗情報

すべてにおいて、バランスの強いまち

景観、産業、人材、文化

景観: インフラ、産業、人材、文化

産業: 観光、農業、漁業、製造業、サービス業、情報産業

人材: 子育て支援、高齢者支援、若年層の定住支援、外国人労働者の受け入れ

文化: 伝統文化の継承、新しい文化の創出

<会員からのご意見>

- ・こうした話し合いは、非常にいい機会であった。この機会を自分事として捉え、幅広く、目下、深掘りするよう話し合いを継続してはどうか。
- ・町内には色々な職業の方がいるので、それぞれの得意分野で力を発揮し、アイデアや意見をいかに生かすかが、
- ・若者や母親など、色々な立場の人が話し合いの輪に入れるような機会があってもいいのではないか。

「対話の場」だけの議論で終わりにするのではなく、「町内全体で議論することが重要である」との認識に至りました。

(2) 文献調査の進捗状況について

NUMOから、これまで数回にわたり、以下の説明が行われてきました。

① 「収集した文献・データ」に関する有識者のご意見について

② ①の審議会において審議されている評価の考え方(評価基準など)とそれに基づいた寿都町の検討例について

<評価基準などの項目は以下のとおりです>

- 影響等
- マグマの貫入と噴出
- 浸食
- 第四紀の末固結堆積物
- 地質資源
- 地熱資源
- 地下の状況のとりまとめ
- 地質環境特性の検討

上記の説明を受け、会員同士で、「疑問点や関心事」「どうしたら町民にわかりやすく伝えることができるのか」など、議論が行われてきました。

<会員からのご意見>

- ・適地、不適地が一目でわかるような地図など、わかりやすい資料を作成してほしい。
- ・どのような判断基準で判断されるのか。
- ・不適となった場合の理由、根拠はどのようなものか。
- ・中立的立場の方が説明すると、わかりやすいし、信頼力があると思う。
- ・文献調査で不明な点は、概要調査(ボーリング調査など)を行うべき。

※なお、調査完了後、町のみなさまに、調査の結果についてご説明する予定です。

## (2) 「対話の場」から派生した取組

### ① 寿都町の将来に向けた勉強会

「対話の場」での「対話の場以外にも若い世代の人たちが議論する場があるとよい」との意見を踏まえ、地層処分事業について一般町民の方に広く知っていただくことを目的として、寿都町とNUMOが事務局となり、2021年12月に勉強会を設置しました。町内に居住の高校1年生以上の町民の方々を対象として参加者を公募し、現在21名が参加、これまでに計17回開催されています。

### ② 視察・見学の実施

「対話の場」にて、参加者より「幌延町や六ヶ所村を訪れて、現地を見学したい」との意見を踏まえ、「対話の場」参加者を中心に町民の皆さまに幌延深地層研究センターや六ヶ所村の原子力関連施設等の施設見学の機会を提供しています。

### ③ お子さま向けイベント視察・見学の実施

「対話の場」にて、「子ども達にも分かりやすく学べる機会があった方がよいのではないか」との意見を踏まえ、NUMOの地層処分展示車（ジオミライ号及びジオ・ラボ号）を寿都町内に展示し、体験を通じて広く知っていただく機会を提供しています。

### ④ わかりやすい資料の作成

「対話の場」にて、参加者から「専門用語等が難しく理解しにくいいため、言葉の意味や町民からのいろいろな質問に、そのキャラクターが答えるような形にしたらどうか」等の意見を踏まえ、事務局が冊子「よくわかる地層処分」を作成し、町民の皆さまに配布しています。



「対話の場」会員による六ヶ所原子燃料サイクル施設視察



「よくわかる地層処分」

## 1.2. 神恵内村「対話の場」

NUMOは、神恵内村において2020年11月より文献調査を開始し、翌年2021年4月15日、第1回「対話の場」が開催されました。「対話の場」は、参加者の意向を踏まえ運営され、これまでに計20回（2024年11月現在）開催しています。

### （1）「対話の場」

#### ① 「対話の場」の設置

「対話の場」は、神恵内村とNUMOが共同で事務局を立ち上げ、場を設置しています。場の運営は、NUMOが事務局を運営し、神恵内村は運営に協力しています。「対話の場」には、参加者の意見を踏まえて決められた会則に則り、ファシリテーターを置いています。

#### <ファシリテーター>※敬称略

メインファシリテーター：大浦宏照（NPO 市民と科学技術の仲介者たち代表）

サブファシリテーター：佐野浩子（Presence Bloom 代表）

#### 神恵内村対話の場会則

（目的）

##### 第1条

対話の場は、高レベル放射性廃棄物の地層処分事業（以下「地層処分事業」という。）について、その仕組みや安全確保の考え方、文献調査の進捗状況等の情報をもとに意見交換を行うこと、及び地域の将来ビジョンに資する取り組みについて意見交換を行うこと、を通じ広く神恵内村民に地層処分事業等の理解を深めていただくことを目的とする。

#### ② 構成員

「対話の場」の参加者は、事務局から村内の各団体に対して参加者の選出を依頼し、各団体からの推薦を得て地域の商工・活動団体等の代表者14名、公募による村民からの参加者3名、計17名の委員で構成されています。

#### ③ 運営委員会

「対話の場」の運営を円滑に遂行するため、神恵内村では「対話の場」から選出された3名の委員、NUMO及びファシリテーターが参画する運営委員会が設置されています。運営委員会は、「対話の場」の開催にあたってスケジュール、テーマ、進行方法等の運営事項について協議しています。



神恵内村「対話の場」の様子

#### ④ 取り上げた議題

回数	日付	主な議題
1	2021/4/15	・ 会則 ・ 地層処分について思うこと
2	2021/6/30	・ 地層処分について思うこと
3	2021/8/5	・ 文献調査の進捗状況 ・ 「対話の場」に期待すること
4	2021/10/15	・ 地層処分事業の概要について
5	2021/12/9	・ 視察報告 ・ 文献調査に関するワークショップ（模擬文献調査）
6	2022/3/29	・ 文献調査の進捗状況
7	2022/4/27	・ 地層処分のリスクと安全対策について
8	2022/6/9	・ シンポジウムの振り返り
9	2022/9/8	・ 文献調査の進捗状況 ・ 地層処分のリスクと安全対策について
10	2022/10/17	・ これまでの「対話の場」の振り返り
11	2022/12/5	・ 文献調査の進捗状況 ・ 交付金制度の紹介と活用の考え方について
12	2023/2/7	・ 文献調査の進捗状況 ・ 交付金制度の紹介と活用の考え方について
13	2023/3/29	・ 文献調査の進捗状況
14	2023/6/8	・ 文献調査の進捗状況 ・ 村の将来について
15	2023/7/27	・ 放射線の基礎知識
16	2023/9/26	・ まちづくりに関する話題の振り返りと海外の事例の紹介
17	2024/2/7	・ 文献調査に関するシンポジウムの振り返り
18	2024/4/15	・ 文献調査について
19	2024/6/24	・ 文献調査報告書案に関する報告
20	2024/10/3	・ 文献調査の進捗と概要調査のあらまし

#### ⑤ 使用した資料

「対話の場」で使用した資料等は、NUMOホームページにおいて、公開しています。  
[https://www.numo.or.jp/chisoushobun/survey\\_status/kamoenai/taiwa.html](https://www.numo.or.jp/chisoushobun/survey_status/kamoenai/taiwa.html)

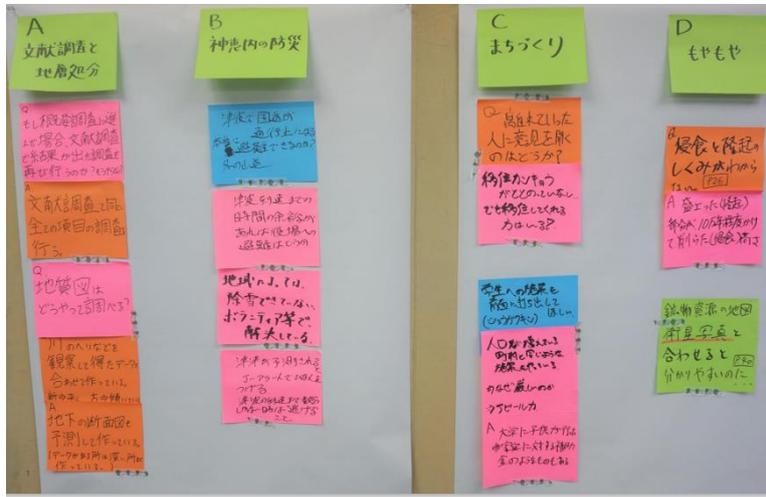
## ⑥ 公開方法

参加者による自由闊達な意見交換と場の透明性の確保の両立を図ることに配慮し、参加者の了承を得た部分をインターネットでライブ配信、村民の方々に限り傍聴が可能なルールとしています。

＜公開のルール＞

- ▶ ライブ配信（意見交換部分は映像〔音声なし〕のみ）
- ▶ 意見交換部分のやり取りは、記録者が付箋に書き留め、模造紙上で整理し、当日後半部分にてファシリテーターによる公開の振り返りで説明
- ▶ 模造紙は、NUMOホームページで公開
- ▶ 後日、会議録をNUMOホームページで公開
- ▶ 傍聴（村民に限り可能）

○対話の記録（模造紙上での整理）の例



## ⑦ 結果のお伝え

「対話の場」の結果は、事務局が広報チラシを作成して、各戸訪問で村民の皆さまにお届けしています。

○結果のお伝えの例

## (2) 「対話の場」から派生した取組

### ① シンポジウム

「対話の場」等での「地層処分に関して、多様な専門家の意見を聞いてみたい」との意見を踏まえ、地層処分事業に詳しい有識者や地質分野の専門家を招き、神恵内村民の皆さまを対象としたシンポジウムを開催しています。

<b>&lt;第1回：高レベル放射性廃棄物の地層処分に関するシンポジウム&gt;</b>
日 時：2022年5月29日 参加者：74名 登壇者：伴英幸氏（NPO 法人原子力資料情報室 共同代表） 吉田英一氏（名古屋大学博物館教授・館長） 進 行：大浦宏照氏（「対話の場」メインファシリテーター） 佐野浩子氏（「対話の場」サブファシリテーター） 内 容：地層処分事業の制度や技術についての意見交換の実施
<b>&lt;第2回：高レベル放射性廃棄物の文献調査に関するシンポジウム&gt;</b>
日 時：2023年11月25日 参加者：55名 登壇者：岡村聡氏（北海道教育大学 名誉教授） 進 行：モデレーター・大浦宏照氏（「対話の場」メインファシリテーター） 進行・佐野浩子氏（「対話の場」サブファシリテーター） 内 容：村の地層や地層処分の問題に関する説明、専門家とNUMOによる意見交換

### ② 視察・見学の実施

村民の皆さまに、幌延深地層研究センターや六ヶ所村の原子力関連施設等の施設見学の機会を提供しています。

### ③ お子さま向けイベント視察・見学の実施

NUMOの地層処分展示車（ジオミライ号及びジオ・ラボ号）を神恵内村内に展示し、体験を通じ広く知っていただく機会を提供しています。



幌延深地層研究センター視察風景

## 2. 振り返りの目的と進め方

### 2.1. 振り返りの目的

「対話の場」振り返りは、国・NUMOが事務局となり、文献調査実施自治体の内外において、今後の地域対話を進める際の参考となるよう、北海道寿都町、神恵内村の住民の方々のインタビューを通じて「対話の場」等に関する経験や教訓、留意事項を整理する目的で、2023年度後半より2024年6月にかけて実施しました。

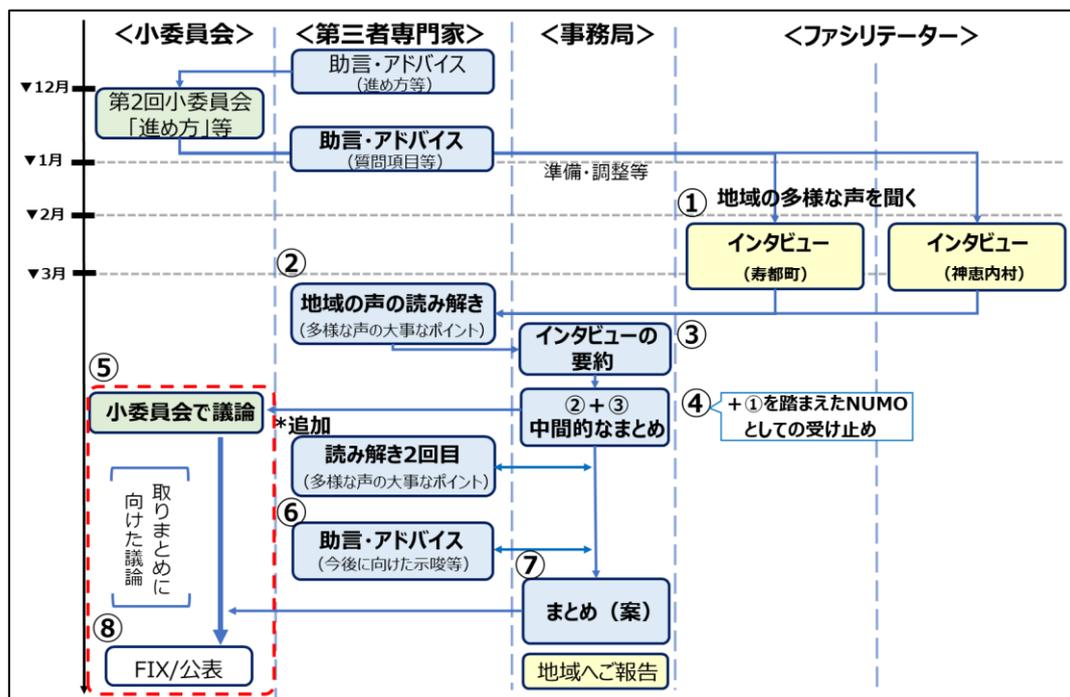
### 2.2. 振り返りの進め方

振り返りは、地域の多様な声を聞くこと(①)からスタートし、寿都町、神恵内村にて「対話の場」の会員・委員を中心に51名にインタビューを実施しました。

住民の方々へのインタビューの協力を仰ぐ際には十分な配慮が必要であることから、インタビューの形式や当日の進め方、留意事項、質問事項等について第三者専門家の監修を得て、事務局はこれらのルール等に基づき取組を進めました。

インタビューの記録は、第三者専門家が地域の声の読み解き(②)として逐語記録から大事な言葉やポイントがある部分を抽出し、その全てを事務局にて要約(③)のうえ、「中間的なまとめ」(④)として国の審議会に報告しました(⑤)。

本報告書は、審議会での意見、第三者専門家による対話方法や情報提供等の専門性に基づく助言・アドバイス(⑥)を踏まえて、事務局が「まとめ(案)/留意事項集」(⑦)としてとりまとめて最終的に公表(⑧)したものです。



出典：総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 第4回 特定放射性廃棄物小委員会 資料6 (2024年6月17日)

## 2.3. 検討の経緯

### ＜国の審議会での審議経過＞

- ① 第40回放射性廃棄物ワーキンググループ（2023年6月22日）
  - ・ 国「当面の取組方針（2023）（案）」にて「対話の場」の総括を位置づけ
- ② 第1回特定放射性廃棄物小委員会（2023年10月13日）
  - ・ 事務局より「対話の場」総括についての検討状況を報告
  - ・ 客観性を確保して総括作業を進めていく方針や、地域対話の専門家・有識者等の協力依頼の状況等を共有
  - ・ 寿都町、神恵内村「対話の場」のファシリテーター竹田氏、大浦氏による小委員会での発表から振り返りがスタート
- ③ 第2回特定放射性廃棄物小委員会（2023年12月11日）
  - ・ 事務局より「対話の場」総括作業の今後の進め方、第三者専門家の多様性の確保、地域での多様な声の集め方について報告
  - ・ 議論を踏まえ、地域の方々に趣旨を誤りなくお伝えできるよう「対話の場」総括という名称から「対話の場」振り返りという名称に変更
- ④ 第3回特定放射性廃棄物小委員会（2024年4月30日）
  - ・ 事務局より寿都町、神恵内村でのインタビュー結果を整理した「中間的なまとめ」を報告
- ⑤ 第4回特定放射性廃棄物小委員会（2024年6月17日）
  - ・ 事務局より第三者専門家によるインタビュー記録の読みとき第2回目及び第三者専門家からの助言・アドバイスを踏まえた留意事項の「まとめ（案）」（事務局案）を提示
- ⑥ 第5回特定放射性廃棄物小委員会（2024年8月1日）
  - ・ 事務局より第4回委員会での議論を踏まえた（「まとめ（案）」の名称を改め）「留意事項集」を提示

## 2.4. 第三者専門家

### <位置づけ>

地域の多様な声を集めて、事務局（国・NUMO）が小委員会へ結果を報告することから、振り返りプロセスの客観性を確保し、また 2 町村の経験を今後の地域対話を進める際の参考とするため、関連する分野からの専門的な助言・アドバイスを得るべく地域対話や最終処分事業等に知見のある第三者専門家を配置し、協力を依頼しました。

### <多様性の確保>

第三者専門家は審議会委員の推薦に基づき、科学技術政策、環境経済学、ファシリテーター等の各分野の専門家に協力を依頼し、さらに多様性を確保するため技術系専門家 1 名、過去の審議会委員かつ対話方法論に詳しい専門家 1 名を追加し、計 7 名を第三者専門家として依頼しました。

### <ご協力いただいた専門家> ※敬称略

青木 将幸	（青木将幸ファシリテーター事務局）
大島 堅一	（龍谷大学政策学部教授）
崎田 裕子	（ジャーナリスト/環境カウンセラー）
鈴木 達治郎	（長崎大学核兵器廃絶研究センター教授）
竹内 真司	（日本大学文理学部地球科学科教授）
徳田 太郎	（NPO 法人日本ファシリテーション協会フェロー）
松岡 俊二	（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

## 2.5. インタビューの実績

### (1) 実施概要

#### ① 趣旨

寿都町、神恵内村の方々を対象に「対話の場」やこれまでの様々な対話活動における国・NUMOの支援のあり方がどうであったか、住民の方々の多様な声で振り返ることを目的に実施しました。

#### ② インタビューの対象者

インタビューの対象者は、寿都町、神恵内村の「対話の場」に参加された方を中心に、その他にも多様な地域の声を集めるため、途中で「対話の場」を退会された方や交替された方、また、地域のなかで「対話の場」がどう見えていたかをお聞きするために、傍聴への参加経験者や出席経験のない一般の住民の方等、ご協力が得られた方々にインタビューを実施しました。

##### ▶ 「対話の場」に参加された方

(趣旨)

「対話の場」の参加の経験に基づく意見を伺う

(対象)

寿 都 町 : 「対話の場」現会員及び旧会員・退会会員

神恵内村 : 「対話の場」現委員及び旧委員

##### ▶ 「対話の場」に出席経験のない方

(趣旨)

「対話の場」が地域からどう見えていたか等について意見を伺う

(対象)

寿 都 町 : 「対話の場」出席経験のない町民の方

「対話の場」から派生した取組である勉強会のメンバーの方

神恵内村 : 「対話の場」傍聴者、「対話の場」出席経験のない村民の方

### ③ 質問項目

「対話の場」の設置・運営の際にNUMOが掲げてきた「場の設置における大切ポイント5項目」(第36回 放射性廃棄物ワーキンググループ 2022年4月7日)が具体的な活動の中で機能・実現できていたか、運営を支援してきた国・NUMOの関与のあり方がどうであったかに加え、今後の調査実施自治体において、どのような要件や留意事項に考慮して場の設置や地域対話を進めていけばよいか等の視点から、質問項目を設定しインタビューを実施しました。

#### <質問項目一覧>

質問項目	「対話の場」 参加された方	「対話の場」 出席経験のない方
場づくりについて	○	
議題の設定	○	
形式	○	
参加者の構成	○	
開催頻度・タイミング	○	
情報提供	○	
進行方法・ファシリテーター※	○	
公開制	○	○
結果の周知	○	○
満足度・相互作用	○	
設置者・国・NUMOの関与のあり方	○	○
地域における位置づけ	○	○
その他視察等	○	○
その他(寿都町の将来に向けた勉強会等)		○

※インタビュー役が「対話の場」ファシリテーターの場合、アンケート形式にて質問

### ④ インタビュー役と形式の選択

住民の方々の忌憚のない意見を伺うために、インタビュー役は3つの選択肢を用意し、グループまたは個別形式にて選択していただく方法を採用しました。

#### <選択肢>

- ▶ 「対話の場」ファシリテーター(グループインタビュー)
- ▶ 調査会社調査員(個別インタビュー)
- ▶ NUMO職員(個別インタビュー)

### ⑤ 第三者専門家による陪席

第三者専門家には、インタビュー記録の読み解きを依頼することから、参加者の承諾の下、いくつかの回でインタビュー時に第三者専門家の陪席を実施しました。また、住民の方が希望される場合にも第三者専門家が陪席しました。

⑥ インタビューへの協力依頼

町村民の方へのインタビューの協力依頼は、電話もしくは個別の訪問にて行いました。趣旨や記録の正確性のための音声録音の承諾を得て、インタビュー形式の選択や日時の調整、第三者専門家の傍聴可否をお伺いし、実施しました。

(2) 実績

① 実施期間

- 2024年2月28日～2024年3月21日（寿都町）
- 2024年2月28日～2024年3月18日（神恵内村）

② 実施人数

- 30名（寿都町）
- 21名（神恵内村）

▶ 寿都町

49名の方に協力依頼を行い、30名の方にご協力いただきました。

対象者	協力依頼人数	実施人数
「対話の場」現会員	17名	13名
「対話の場」旧会員、退会会員	7名	1名
出席経験のない町民の方	4名	4名
勉強会メンバーの方	21名	12名
計	49名	30名

▶ 神恵内村

28名の方に協力依頼を行い、21名の方にご協力いただきました。

対象者	協力依頼人数	実施人数
「対話の場」現委員	17名	13名
「対話の場」旧委員	3名	2名
「対話の場」傍聴者	6名	4名
出席経験のない村民の方	2名	2名
計	28名	21名

### 3. インタビューによる振り返り：対話の場に参加された方

本章にて掲載している、インタビューでの主なご意見は、第三者専門家にインタビューの逐語記録を読み解いていただき、特に拾うべき大事な言葉やポイントを抽出していただいたものを中心に事務局が要約し、とりまとめたものです。第3回特定放射性廃棄物小委員会（2024年4月30日）にて、事務局より報告した「中間的なまとめ」に掲載したご意見のうち、語彙不足の部分を再度確認した上、第三者専門家への追加の逐語記録の読み解き分で頂いたものを反映しています。

#### 3.1. 場づくりについて

##### 質問

- Q1. 対話の場の目的である「事業への賛否によらず、情報提供や意見交換ができる環境づくり」の状況についてどう思いますか。
- Q2. 「参加者の皆さんの意向を尊重する」という場づくりの状況について、どう感じますか。

##### 【主なご意見】

###### <寿都町-Q1>

- ・ 言葉に気を使いながらも情報交換や意見交換はできていた
- ・ 前半の地層処分テーマの回は率直な意見を言い合った印象は少ない
- ・ 発言しても否定はされない環境だった
- ・ 賛成反対両方の有識者の意見を聞く場があるとよい
- ・ まちづくりの観点をNUMOと一緒に議論したくない
- ・ 賛成派の方たちは、文献調査で交付金を頂いて、それでまちづくりをするのだという人が多い
- ・ 事業の賛否によらず、情報提供と意見交換ができる環境を作ることは難しい。感情的になる参加者もいて、議論が深まらない状況が続いていた

###### <寿都町-Q2>

- ・ 会則の趣旨を理解せずに退会された方がいたのは残念
- ・ 推進派と慎重派の専門家の話が実現していない
- ・ 放射線の話も何でもないような印象の話が多く、そうでない専門家の話が実現していない
- ・ 事務局、参加者ともに、お互いの意向を尊重するのが難しい状況であった

###### <神恵内村-Q1>

- ・ 地層処分への理解は相当深まった
- ・ 村の将来についての議論は自治体の政策に反映されるところはまだこれからで難しい
- ・ 対話の場で地域の将来の議論をするのは賛成できない
- ・ 対話の場を村として位置づけてはいないので政策に反映させる責任はない
- ・ 地層処分事業への理解を深めていただく目的は、あまり村民には広まっていない
- ・ 理解の前に賛否があり、理解を止めた人に対話の場がきっかけになればよかったがそうっていない

- ・ 盛り上がりはだんだんしぼんでいる印象
- ・ グループワークは小規模なので意見を言うことができてよかった
- ・ いままで横の連携により村の将来を話し合う場がなかったのでよい機会になった
- ・ 村の将来のことや若い人の意見を聞いて話せたのはよかった
- ・ 賛否に偏らず意見交換できるか不安だったが納得して満足して毎回参加することができた
- ・ 最初は嫌だなと思ったが来ているうちに賛否関係なく夢中になって議論ができて楽しかった
- ・ 説明と対話は異なるので説明の機会であれば対話の場という表題には違和感がある
- ・ 説明の場と集まって対話したい人の場は分けて考えてもよかった
- ・ 場のルールに従って参加者がそれを守りながら話あったことがよかった
- ・ 説明のなかで知りたいことなど深掘りして急遽議題化したりしたことは運営委員会が機能していたおかげ
- ・ 資料もわかりやすく出ていたし話しやすい環境だった
- ・ 対話の場は事業者であるNUMOが運営しているため、一定の方向性がある
- ・ 賛否の考えを示していかないと、事業者の方向性に影響を受けてしまうのではないか

#### <神恵内村-Q2>

- ・ グループワークの時間が足りない、いい感じに温まってきたところで終わってしまう
- ・ 振り返りをして再度議論をするならよいがテーマが変わってしまうので振り返りの必要性があるのか
- ・ 批判的な方の意見を聞く時間が取られすぎている
- ・ グループワークでは対話ができている
- ・ 自分の考えをはっきりと表明してから、意見交換をしてもよかったのではないか

### 3.2. 議題の設定

#### 質問

Q1. 議題は、参加者の意見を踏まえて決められていましたか。

#### 【主なご意見】

##### <寿都町-Q1>

- ・ 学者が推論や理論のみで情報を流布されるのは困る、最新の科学的見地に基づいて情報提供してほしい
- ・ 多様な有識者の意見をもっときいてみたかった
- ・ 議題は地層処分からはじまってまちづくりに進んだのは順番としてよかった
- ・ 文献調査段階で終わる可能性もあるのに、まちづくり議論はまだ尚早ではないか
- ・ まちづくりは役場と議論するならよいが、いまの時点では現実性に乏しいのでは
- ・ 議題を決める際に、運営の人が何個かピックアップした上で、会員向けのアンケートを実施すれば、もう少し会員が議論したいことを話せたのではないか
- ・ 議論のテーマによって開催頻度を詰めるなどテーマによって変わってくるのではないか
- ・ 議題の選択肢から希望の多いものを選ぶ方法
- ・ 1つの会場に複数のテーマがあり話したいことを選べる方法
- ・ 全体の場合よりもグループワークの場合のほうが意見が言いやすい
- ・ 議題に関して、賛成派の意見はどんどん実現していくと感じた
- ・ TRUは住民説明会では説明されていない
- ・ 説明は丁寧でも最後に安全という落ちがある
- ・ 議題を提案すること自体が初めてで、適切な提案をできるかどうか難しく感じた

##### <神恵内村-Q1>

- ・ 意見が異なるのは仕方がないので運営委員会に任せており皆さん納得しているのでは
- ・ どこまで詳しく勉強すべきなのか、学者になるわけではないのに終わりが見えない
- ・ もっと知りたければ専門家に個別に聞くことで全員で話す必要性がないものもある
- ・ グループに分かれて興味があることができれば結論がでなくても納得できる
- ・ テーブルごとにテーマを分けて話したい、テーマごとに話せると満足度が高い
- ・ 批判的な地質学者の意見を聞く機会が反映されたのはよかった
- ・ 賛成、反対の有識者の討論はもう一度くらい機会があってもよかった
- ・ 言葉が難しく、理解に時間がかかったが、一生懸命意見を出し合った
- ・ 神恵内の地層がどうなっているのか興味がある
- ・ 文献調査以外にも村の将来について議論する場がありよかった
- ・ 地層処分について、専門家の意見やメリットとデメリットの関係についてもっと聞きたかった

### 3.3. 形式

#### 質問

- Q1. 小グループに分かれた、ワークショップ形式での意見交換のやり方について、どう感じますか。
- Q2. 参加してみて、他者の意見にもいいなと思えるものはありましたか。

#### 【主なご意見】

##### <寿都町-Q1、Q2>

- ・ グループワークは話し合いができてよかったが、グループごとの意見を取りあげて深掘りしてもよかった
- ・ 全般的に少し対話の形にはなっていなかった
- ・ 産業団体の代表は組織を背負っているので発言しにくい部分があったのではないか
- ・ グループワークは仲間内で話しをするだけで意味を感じられなかった。何かをする時には行政が絡む。役場の人に考えが伝わらず、役場も議論に参加すべきだったのではないか
- ・ 対話は名ばかりで地層処分の勉強が目的であれば、コの字型ではなく正面を向いて学んだほうがよかったのでは
- ・ グループワークは毎回同じ人でなく、メンバーを変えていろいろな人の意見を聞いてみたい
- ・ 参加者の構成における賛否が偏っているのでは、反対の意見も聞いてみたかった
- ・ グループワークのほうが話しやすい
- ・ 賛成、反対の人と一緒に議論させても一つにはならないと感じた
- ・ 団体のトップが町の指名で来ているので意見出しが活発にならない
- ・ 小グループや全体での議論であっても、参加者の意見は十分に聞けない
- ・ テーブル毎にファシリテーターがいることで、直接相手の発言を聞くより、ワークショップにおいて薄まってしまうもどかしさがあった
- ・ 指名されて参加している立場のため、本音が言いづらかった

##### <神恵内村-Q1>

- ・ グループワーク時の雑音や距離感は課題
- ・ いろいろな業種や年代の人が集まり話すと楽しい、人数的にもちょうどよい
- ・ 参加者の構成はよかったが若い人、高校生なども入ってもよい
- ・ 神恵内出身で外から村を見ている若い世代の参加
- ・ 話し合った先にどうしたいのかが分からないので何のために話しあう機会だったのか
- ・ グループワークはみんなで話しができ、異なる意見や気づきもあった
- ・ グループワーク形式であっても、話す人は限られてしまうため、投票やアンケート等、自分の意見を書く形式でもよかったのでは

##### <神恵内村-Q2>

- ・ 参加してみていろいろな考えがあることに触れて有意義だった
- ・ 自分にはない質問や疑問点が出されたことでさらに参考になった
- ・ 丁寧に回答してもらえたことがよかった

### 3.4. 参加者の構成

#### 質問

- Q1. 参加メンバーの構成について、どう感じますか。こういう方も参加すべきという方はいますか。
- Q2. 人数や規模、バランスについてどう思いますか。もっとよい方法があるとすればどんな方法でしょうか。

#### 【主なご意見】

##### <寿都町-Q1>

- ・ 活発に議論できたのはまちづくりテーマでのグループワークだが、地層処分事業の理解を深める目的ではできていない
- ・ 参加人数の大半が議員で占められていた
- ・ 女性の参加者が増えると考え方も多様になる
- ・ 女性だけの議論の場だと話しやすい状況になるのでは
- ・ 町内の地区ごとに一般の町民がまちづくりを話す機会はなかった
- ・ 町民の意見をバランスよく聞くためには、10代から50代まで年代ごとに均等に町民を参加させてもよかった
- ・ 参加者を町の指名で選んだことが反対派には受け入れられないのでは
- ・ 視察・見学後のほうが話しやすい、対話の場はセレモニー的なのもっとざっくばらんに話ができる場が必要
- ・ 町の将来に向けた勉強会のように反対の意見の人も一緒に勉強できる場が必要
- ・ 若い世代の参加者をもっと増やすべき
- ・ 女性の意見をもっと聞いてみたい
- ・ 外から見ると町には分断が起きてしまい対話どころではなくつらい
- ・ 慎重な立場から会場に経産省やNUMOや町長がいる場では対話しづらい
- ・ 「対話の場」に参加しているが、参加者構成をよく分かっていない
- ・ 賛成・反対と別々に議論する方が、議論しやすいのではないか
- ・ 高齢者が多く、人数も少ない限られた場で話しをしても、町民には広がらない
- ・ 文献調査開始前に勉強する場が必要、開始後の勉強は無駄
- ・ 地域の分断が始まってから、対話をするのは難しい

##### <寿都町-Q2>

- ・ 人数を増やして多様な意見が聞けるようにしてもよいのでは
- ・ 賛成・反対一緒に議論しにくければ、それぞれのチームを作って月1ごとに開催する方法もあった
- ・ 女性や反対の意見の参加者を増やす方法
- ・ 公募で町民から参加者を募る方法
- ・ 団体の長は組織の意見と捉えかねられず、もうひとり同じ団体から参加を募ればバランスが取れるのでは
- ・ 会則に縛られず、始まったら参加者側にも決める権利を持たせてもらい柔軟に運用する方法

<神恵内村-Q1>

- ・ 団体に偏りすぎ、地区や町内会のバランスも配慮できたのでは
- ・ 団体や組織から参加している人はその団体や組織内での情報提供機会があったほうがよかった
- ・ PTA 役員会でも 5 分でもいいから情報提供機会がつくれたかもしれない
- ・ 役場の人も村議も参加できる誰でも公募で参加できる方法
- ・ 団体や組織から人を出してもらっているがそれでも不足があり神恵内ではこれ以上の構成は大変
- ・ 公開は個人と発言が特定されてしまうので名簿での公開は避けた
- ・ 団体の代表であっても、団体のなかでは何を議論しているのか聞かれないので自分からも話さない
- ・ 参加者を推薦する際の柔軟性が欠けていた
- ・ 役場関連の団体の推薦者が多く、基本的に公募を優先してもらいたかった

<神恵内村-Q2>

- ・ 役場の若手職員や学校の先生なども参加してはどうか
- ・ 若い世代の参加者を増やしたほうがよい

### 3.5. 開催頻度・タイミング

質問

Q1. 開催頻度や時間帯（平日夜）について、どう思いますか。

#### 【主なご意見】

##### <寿都町-Q1>

- ・ 専門的な話になると参加者同士の対話になりにくい
- ・ 仕事終わりの平日の夜に、高頻度に参加するのは負担に感じた
- ・ 年間の開催スケジュールなど、見通しがわからない
- ・ 対話の場は参加したい人の都合に合わせて、柔軟な運営をするとよい。1つでなくてよい

##### <神恵内村-Q1>

- ・ 開催は平日夜がよい、週末は行事もある
- ・ 開催間隔が2カ月では空きすぎで振り返りなどしたくても忘れてしまう
- ・ 開催頻度が1.5カ月に1回だった時は高頻度だと感じた
- ・ 開催日は普段と異なる生活リズムとなり疲れた

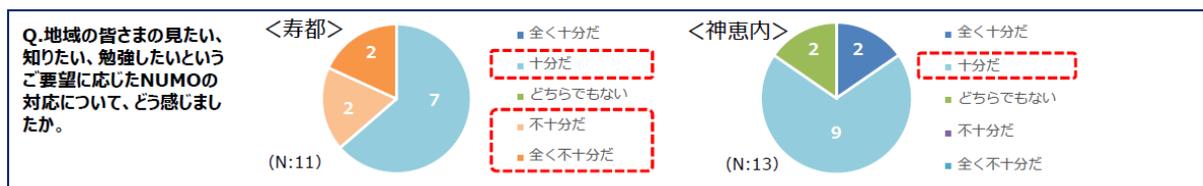
### 3.6. 情報提供

#### 質問

- Q1. 対話の場で提供した情報は、皆さんの地層処分の安全性に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。また、地層処分事業について、理解を深めることにつながるものでしたか。
- Q2. 安全性についてNUMOが情報提供したことについて、どう感じますか。
- Q3. 対話の場で提供した情報は、文献調査に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。また、文献調査について、理解を深めることにつながるものでしたか。

※アンケート形式併用

#### 【アンケート結果】



#### 【主なご意見】

##### ＜寿都町-Q1＞

- ・ 情報提供で地層処分の技術の高さは理解できた
- ・ 幌延を見学できよかった、六ヶ所は地層処分事業のまちづくりとは現実とかけ離れている
- ・ 地層処分という技術が確立されていないかどうかは、比較のしようがなく、精度の高さも分からない。ただ、日本の原子力技術と科学の力は信じている
- ・ 地層処分は100%と言えるのか、99%安全でも1%のリスクが残る
- ・ 1%のリスクの重みを知り、理解することができた
- ・ 慎重派の会員の質問にも事務局がきちんと回答していた
- ・ 勉強での基本的な理解に加え、現物を見られる視察が有効である
- ・ 参加者が希望する議題で実現していないものがいくつかある
- ・ 勉強会で知識を増やしてから対話形式の場を実施すべきではないか
- ・ 地層処分がなにか分からない段階より、勉強してから対話したほうがよい

##### ＜寿都町-Q2＞

- ・ 町も少し関わりを持ってもよかったのではないかと
- ・ 地下が安全なのかボーリング調査して明らかにしてほしい
- ・ 慎重派の有識者による対論の機会が実現していない
- ・ JAEA など第三者機関が説明してくれる方法
- ・ 地層処分も安全神話という思い、疑問は取り除かれていない

##### ＜寿都町-Q3＞

- ・ 町は広報などの面で関わりが必要だったのでは
- ・ 文献調査だけでは分からないことが多い、概要調査とセットで実施すべき
- ・ 対話の場での内容は事前に勉強をしないと、意見を言えるような状況にならない
- ・ 両方の専門家の意見を聞ける場がほしかった

### <神恵内村-Q1>

- ・ 幌延や六ヶ所など視察・見学に行ったことはよかった
- ・ 学者間でも見解が異なりオールジャパンで議論してもらえないのか
- ・ 反対するのは簡単だが活断層など未知のものもあって処分場をつくってもつくらなくてもリスクはあり続ける
- ・ 地層処分事業が国や規制委員会など大きな枠組みのなかで実施されていることが分かって参考になった
- ・ 情報提供は絵がわかりやすく説明も聞きやすかった
- ・ まちづくりや村の将来の話をもう少し議論してみたかった
- ・ 村の基幹産業等、より詳細の部分を議論したかった
- ・ 事業について理解を深めるとはどういうことか

### <神恵内村-Q2>

- ・ NUMOは事業者なのでいのようにプレゼンする面は否めない
- ・ 都合が悪いことは回答しないという場面はなかった
- ・ 神恵内の具体的な位置に引き寄せて説明してほしい
- ・ NUMOの情報提供ではマイナスな情報は出てこないのでは
- ・ NUMOは事業遂行が使命、情報提供を行うのは当たり前
- ・ 異なる意見や立場の違う意見も情報提供する場
- ・ 反対の有識者などNUMOにマイナスの情報も聞いてみたい
- ・ NUMOの情報提供で説得されている印象はない
- ・ 質問の回答の根拠はわからないことがあった
- ・ NUMOが一生懸命答えている姿勢はわかった
- ・ 地域特有の情報や事情を理解するために、より具体的な情報が必要だと感じた
- ・ NUMOは、安全性や地層処分について、一方的な説明をし、違和感があった
- ・ 事業の話とその対話を同じ場で行うことへの違和感があり、技術的な説明と対話をする場は別の場で行うべき

### <神恵内村-Q3>

- ・ 情報提供されたものは非常に難しく、ファシリテーターが細かく仲介してくれて理解が深まった
- ・ ファシリテーターの説明なしには理解できない情報が4割以上あった
- ・ 日頃見ていた岩石が水冷破碎岩だと知りいろいろなことが学べた
- ・ わかりやすさの点で簡略化したとしても資料作りには限界がある
- ・ ファシリテーターがかみ砕いてくれたおかげで理解できた
- ・ 地元の地名や地理に引き寄せて初歩的に説明してくれるとよい

### 3.7. 進行方法・ファシリテーター

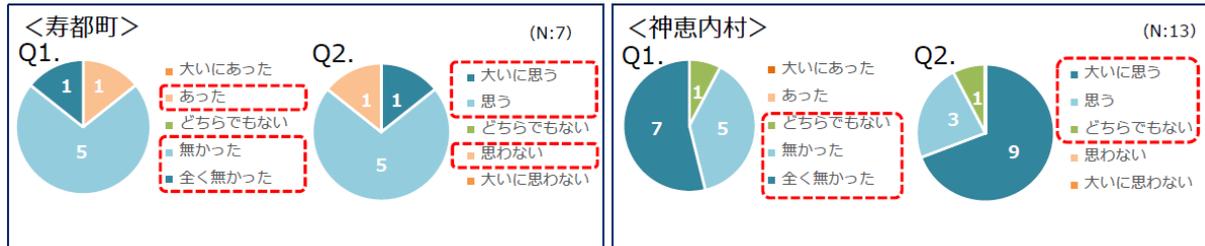
#### 質問※

Q1. 進行方法は、偏ったりしていませんでしたか。改善すべき点はありませんか。

Q2. ファシリテーターがいたことで、新たな気づきが生まれたり、対話は生まれましたか。

※インタビュー役が「対話の場」ファシリテーターの場合、アンケート形式にて実施

#### 【アンケート結果】



#### 【主なご意見】

##### <寿都町-Q1>

- ・ スムーズにバランスの取れた進行で論点をまとめていた

##### <寿都町-Q2>

- ・ 限られた時間の中で適切に場をまとめ参加者の意見を導いていた
- ・ ファシリテーターとNUMOの方の違いが感じられない

##### <神恵内村-Q1>

- ・ わかりやすく説明していただいた
- ・ 多くの人の意見を出してもらえるよう進行してくれた
- ・ 色々な意見をきちんともれなく取り上げていたから
- ・ 意見を流すことはこれまでもなかった

##### <神恵内村-Q2>

- ・ 私たちの言葉を拾って、わかりやすくまとめてくれた
- ・ 難しい言葉をかみ砕いて説明してくれた
- ・ もう少し聞きたい他者の意見を聞けて、自分の意見もそれに乗せて伝えられた

### 3.8. 公開制

#### 質問

- Q1. 議論の部分は、非公開ですが、話しやすいと感じますか。名前や職業等、個人の属性がわからないように配慮した上で議論の内容を公開すべき、という意見についてどう思いますか。
- Q2. メンバー以外の町村民の方の傍聴や、町村以外の方への公開についてはどう思いますか。

#### 【主なご意見】

##### <寿都町-Q1>

- ・ 関心のある町民が傍聴できるのであれば公開でもよい
- ・ ライブ配信は論外ではないか
- ・ 全面公開だと個人が特定されてあとから指摘を受ける懸念がある、みんな口ごもってしまうのでは
- ・ 10代の一般町民の参加を募った場合に、その発言を公開してしまうのは避けた方がよい
- ・ 全面公開になればもっと言葉を選んで話すようになる
- ・ 全国に議論の様子が配信されると知らない人による SNS 投稿などが心配
- ・ 情報公開の時代でもあり、全国で初めての事業なので全国の人に知ってほしいという気持ちもある
- ・ 傍聴を許可すると発言しにくい
- ・ 時代の流れで議論を公開すべき点は理解できるが小さい町なので誰が何を言ったかは自然に伝わってしまう
- ・ ライブ配信は活発な意見交換を妨げるのではないか
- ・ 公開の場で意見を言える人が参加すれば議論が活性化し町にも広がる
- ・ 町民は対話の場をいつやっているのかも知らない
- ・ 関心のある町民には参加してもらうことが必要
- ・ 名前等も公開できる人は参加し、公募も含めて自由闊達にオープンに議論すべき

##### <寿都町-Q2>

- ・ 町も、傍聴に町民が来る場合も言葉を選んで話すようになる
- ・ 話したことが素直に伝わればよいが、違う意味で伝わってしまうのはよくない
- ・ 傍聴は否定的、反対派の傍聴者からのやじが出てしまうことが心配
- ・ 反対派の人は熱心なため、傍聴を許すと会場の雰囲気が悪くなる
- ・ 団体の代表者の発言は、団体みんながその考えだとひとくくりされる
- ・ 議論が終わったあとにまとめて町民に公開する形でよい
- ・ 寿都だけでなく、近隣町村にも影響が及ぶ問題であるため、公開してもよい

##### <神恵内村-Q1>

- ・ 幌延や報道が冷静になってからはいまの公開方法で議論を見てもらっても違和感なく話せている
- ・ 公開によって参加してみようと思う人もいるかもしれない

- ・ 公開すると意見が賛成か、反対かに切り取られる恐れがある
- ・ 交付金の使途などの議論は公開したくない
- ・ グループワークの部分は非公開のほうがよりよい意見がでる
- ・ 村民への傍聴での公開はかまわない
- ・ 公開することにより、発言しにくくなる

<神恵内村-Q2>

- ・ 村外から傍聴に来るのは関心の強い人でどんな人が来るかわからない
- ・ 岩宇4町村の人には公開して、人数制限するなどの方法
- ・ 本当はすべてオープンにして理解を深めてもらわないとだめ
- ・ 一部の名簿だけ公開するやり方に違和感を感じる、ならば全て非公開にすべき
- ・ 村外の傍聴者が入ることには抵抗がある
- ・ 村外の傍聴の公開は傍聴者にもいろんな思惑があるので怖い感じがする
- ・ いまの対話の場がアットホームなのでこのままでよい
- ・ 対話の場の傍聴は事前申し込み制であり、気軽に傍聴しにくい
- ・ 周りから何をやっているのかと聞かれても、説明することが難しい

### 3.9. 結果の周知

#### 質問

Q1. 議論の結果は、町民や村民の皆さんに、伝わっていると思いますか。

#### 【主なご意見】

##### <寿都町-Q1>

- ・ 反対賛成の人が議論していて中間の人は話したがらない
- ・ チラシには一般の町民は興味を示さないのでは
- ・ 新聞の折り込みも購読率が減っており効果が薄いのでは
- ・ 町民には議論の結果は伝わってない、内容が難しいのではないか
- ・ 議論の結果は町民にもっとわかるようにしてほしい
- ・ 賛成している人でもチラシは文字が小さいし、難しいので読まれない
- ・ ホームページはなかなか見ない

##### <神恵内村-Q1>

- ・ 村民には議論の結果は伝わっていない
- ・ 地区ごとのミニ集会や団体ごとなどの説明など、何か行事のあるタイミングで説明に来てもらう方法
- ・ チラシは配っても読まない、耳で聞いたほうがよい
- ・ チラシは目を通してはいるが中身が難しい、村のために何かしてくれていることは理解できる
- ・ チラシの中身はわからなくても事業や調査に関心のある人が一定数いるのはチラシのおかげ
- ・ チラシを配布しないと特定の人で何かしていると批判がでるのでその効果もある

### 3.10. 満足度・相互作用

#### 質問

- Q1. 対話の場の参加後に、議論の結果を家族や知人の方に、お話しする機会がありますか。
- Q2. 対話の場に参加して、他者の意見に触れて、考え方や意見に変化はありますか。
- Q3. 参加しづらい、行きたくないと思った時はありますか（それはなぜですか）。

#### 【主なご意見】

##### <寿都町-Q1>

- ・ 聞いてくる人も少ない、関心が薄いのでは
- ・ 家庭内でも話さない
- ・ 対話の場の初回に議論がもめてしまったのは残念
- ・ 家庭内でも聞かれた時くらいしか話さない、あまり興味を感じていないのではないか
- ・ 家内は幌延に見学に行った後は少し関心を持った様子
- ・ 配布される資料が難しすぎて、説明を受けずには理解するのは難しいのでは
- ・ 多少理解しているが、まったく知らない人に話をしても理解されないのでも駄目
- ・ 地層処分という言葉は知っていても、その中身はまったく分からないので会話にならない
- ・ 反対派の人とはけんかになってしまうので会話はできない
- ・ 議論の結果を外で話してはいけないものと思っていた
- ・ 反対の意見の人とはあまり話をしない
- ・ 地層処分のような賛否のある事業理解を町で行うことは限りなく難しいのではないかと感じた
- ・ 議論の結果を家族や知人に話すことはあまりない
- ・ 対話の場の様子を家族に話すことはある
- ・ 対話の場自体、全然知られていない

##### <寿都町-Q2、Q3>

- ・ まちづくりを一生懸命やろうという町民の皆さんがいることが参加を通じて分かった
- ・ 後半のグループワークに入ってから議論が活発になった、多少公開してもよかった
- ・ 反対意見の人と議論をかみ合わせるのは難しい
- ・ 考え方は反対でも堂々と意見が言えて参加したい人を何人か公募で集めるほうがよかった
- ・ 地区ごとに何人か選定して数を増やす方法もある
- ・ 対面式は他者の意見はほとんど出ていない、まちづくりテーマのグループワークでは参加者同士話すようになった
- ・ （公開して）話中に周囲を囲まれると、言葉を選んだり、気を遣わなければならない
- ・ 自由闊達に話せばよいがそうでない雰囲気を感じる
- ・ 学術会議のような中立な立場の話を聞けるのかと思ったが受入れられなかった
- ・ 慎重な立場の人がいなくなり参加するのが毎回辛かった
- ・ グループワークになってから、さまざまな考えに触れられ、慎重的な考え方を知ることができ、参考になった

- ・ 他の参加者の意見を聞いて、自分の考え方が変わったことはあまりない
- ・ 会則でもめた時は行きたくないと感じた
- ・ 町長など多くの人が並ぶ場面で話すように求められても、何を話せばよいのかわからず、戸惑う
- ・ 自分と同じような考えの参加者が少なく、参加が辛いと思ったこともあった

#### <神恵内村-Q1>

- ・ 家庭内では話をすることがある
- ・ 議論の結果を家族で話したりもしない
- ・ 議論の中身を話すことはほとんどない
- ・ 議論の内容を村内で話すことはない、説明するのは難しい
- ・ 接客時や村外の知り合いに聞かれたときに話す
- ・ チラシが配布されると、話すきっかけになる
- ・ 「対話の場」の概要の説明自体が難しく、部分的な説明ならできるものの、漠然した質問には適切に答えられない
- ・ 議論の内容より施設見学について聞かれることが多い

#### <神恵内村-Q2、Q3>

- ・ 初めは嫌だなど思いながら理解が進んだことで楽になった
- ・ 他者の意見に触れて考え方や意見に変化はあった
- ・ 疲れや仕事など自分都合はあるが、対話の場が嫌で行きづらいつと感じたことはない
- ・ つくる、つくりたくない、はっきり反対という人は周りにはあまりいない。先のことであり、いいのか悪いのか結局は分からないという話で終わる

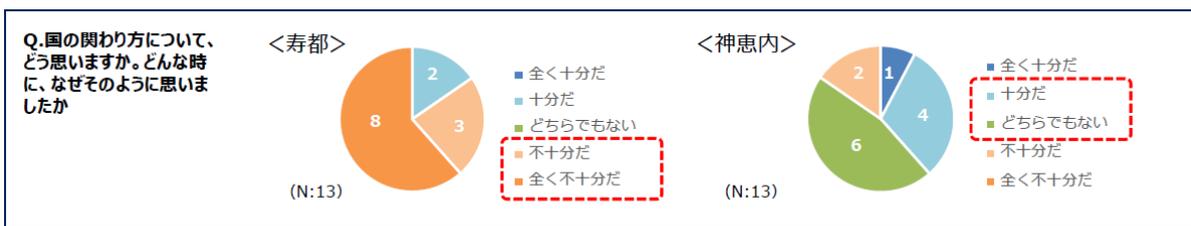
### 3.11. 設置者、国・NUMOの関与のあり方

#### 質問

- Q1. 場の設置者は、町（村・NUMO）でしたが、町の関わりはどのように感じますか。
- Q2. 事務局は、NUMOでしたが、NUMOが担うことに対し、どう思いますか。
- Q3. 国の関わり方に対し、どう思いますか。どんな時に、なぜそのように思いますか。

※Q3 はアンケート形式、自由記述を併用

#### 【アンケート結果】



#### 【主なご意見】

##### ＜寿都町-Q1＞

- ・ 調査開始後にNUMOが前面に立つのではなく、町も説明などで前に出てきてほしい
- ・ 対話の場の人選の観点でも町の関与は必要
- ・ 対話の場で町の姿は見たが、町の関与は感じない
- ・ 対話の場に参加しているが、設置者が分からない
- ・ 町は中立な立場を保つ必要がある
- ・ 町とNUMOで何を話していたのかが見えなかった

##### ＜寿都町-Q2＞

- ・ 対話の場の事務局はNUMOでよい
- ・ NUMOは専門性の意味で、質問に対する回答などNUMOが情報提供することでよい
- ・ NUMOは電力会社に見えてしまうので海外のような第三者機関に運営させる方法
- ・ 法律にNUMOが担うことが決まっている
- ・ NUMOは電力会社からの派遣だから地層処分事業でも分断が起きてしまう
- ・ 科学的な説明も第三者の中立的な機関が必要
- ・ フィンランド等の諸外国のように、国主導ですすめていくべき事業であって、NUMOに押し付けられているように感じ、国の関与が不十分

##### ＜寿都町-Q3＞

- ・ 国は積極的に取組んでいないのでは
- ・ 地層処分を国民全体の課題として認識させてほしい、北海道だけの問題になっている
- ・ 法律や現在の動きなど国の情報提供がもっとあってもよかった
- ・ 国の顔が見えるような進め方をしてほしい
- ・ 地層処分は国際的な方法で日本だけが進まないわけにはいかず、国民全体の課題として認識させてほしい

- ・ 国がもっと積極的に関わってもよい
- ・ 国はもっと真剣に関与してほしい
- ・ 国の場への参加は参加者が監視されているようで難しいのでは
- ・ 国の関わりが対話の場で説明されたことがなく、議論もしていないため、関わり方には疑問を感じる
- ・ 国の事業であるため、オブザーバーのような立場ではなく、積極的にリードしてもらい、真剣に関わってもらおう

#### <神恵内村-Q1>

- ・ 村の職員の関与が少ないのはもったいないが、行政の介入と取られたりするのであればいまの形がよい
- ・ 村が設置者として関わる必要はない
- ・ 地域振興の議論では役場の話も聞いてみたくなるのでNUMOと村の共同事務局のままよい
- ・ 調査の応募したのは村なので事務局として関与して当然
- ・ 村の職員もテーブルワークに入ったほうが話ができる
- ・ 村は開催場所を貸しているくらいの認識でしかなかったが、設置者となると違和感を感じる
- ・ 交付金の説明をする場面があったことを鑑みると、村とNUMOの共同運営でいい

#### <神恵内村-Q2>

- ・ 村民が担うよりNUMOが事務局でよい
- ・ 海外のように第三者機関が担うのは理想ではある
- ・ 第三者機関が担う方法
- ・ 文献調査段階では第三者機関までは不要
- ・ 第三者機関で有識者が運営する方法もある
- ・ NUMOが誘導したりすることはなかった
- ・ 第三者が運営する案を初めて聞いたが、良い案だと感じる
- ・ 第三者に運営してもらい、情報提供者としてNUMOや慎重な考えをもつ専門家を呼べばよいのでは
- ・ 第三者機関の場の設置は、一步間違えれば、良い結果にも悪い結果にもつながってしまう

#### <神恵内村-Q3>

- ・ 手を挙げた自治体を国がもっと積極的に守ってほしい
- ・ 調査に手を挙げるのはすごい勇気がいること
- ・ 知事会や市町村長会などで大臣がこの問題へ理解を得ることを示してほしい
- ・ 反対なのに見も来もしない、知事には対話の場を見に来て地域の声を聞いてほしい
- ・ 国策であれば日本中の問題として国がもっと地方に働きかけてほしい

### 3.12. 地域における位置づけ

#### 質問

Q1. 対話の場は、地域の人たちにとって、どのような場だと思われていたと思いますか。

Q2. 文献調査期間中に必要な対話の場とは、どんな場だと思えますか。

#### 【主なご意見】

##### <寿都町-Q1>

- ・ 対話の場は町が選んだ一部の人が話し合いをしている場
- ・ 勉強会や説明会の場
- ・ 町民のなかで知らない人は対話の場で勝手に議論していると思っている人もいる
- ・ まちづくり議論は、交付金とセットでまちづくりへの協力が概要調査とセットに見えるのではないかと

##### <寿都町-Q2>

- ・ NUMO職員が町民と日常的な関わりがもっとあったらよかった
- ・ 気軽に対話するのは難しいので、同じ意見同士の人で固まりつつディベート形式にする方法
- ・ まず地層処分に関する基本的な理解がないと、次の段階の調査への賛否の判断もできない
- ・ 賛否に関係なくNUMOと一緒に町がもっとリードしてもよいのでは
- ・ 第三者を入れるほうが反対派の人の関与や納得が得やすいのではないかと
- ・ 最初の住民説明会は多くの住民が参加し関心が高かった
- ・ 自分の意見が言えてオープンな場になると住民も行く気になる
- ・ 地域によって賛否の考えはそれぞれであり、即座に解決策が出てくることはない
- ・ 対話の場や勉強会は、もっと深く理解を得られるような取り組みが必要であり、より深い話題を切り込んでいくべき
- ・ 調査開始後に対話の場か説明会が必要だった
- ・ 意見を言いやすい場、自分の意見が反映される場ならよかった
- ・ 指名は場を狭めてしまう

##### <神恵内村-Q1>

- ・ 対話の場に参加するだけで外部からは賛成と思われている
- ・ 対話の場がなにか、何をしているのか分かっていない人がほとんど
- ・ 説得される場や賛成する人が集まる場とは思わない
- ・ 世代、男女など地域の人々のいろいろな意見が聞けるような場づくり
- ・ 大きな規模の都市ではひとつにまとめるのは難しいのではないかと
- ・ 1回目に議論して原点となる会則を定めることは大事
- ・ 対話の場のことはほとんど聞かれない
- ・ 秘密結社だと思われているのではないかと
- ・ 対話の場について、聞いてくる人がいない

<神恵内村-Q2>

- ・ 他地点でもこうした対話の場は必ず必要で地域の人が集まってよい方向に持っていけばよい
- ・ 賛成、反対の人は集まって対話の場を開いても最後まで対話にならないのでは
- ・ 対話の場は、その地域に集まった人で変わってくるもの。神恵内での対話の場を他地点の参考としてよいか、分からない

### 3.13. その他（視察・見学などの活動等）

#### 質問

- Q1. 見学や視察、その他活動は、皆さんの地層処分の安全性に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。また、地層処分事業について、理解を深めることにつながるものでしたか。
- Q2. 対話の場の運営について、国やNUMOに何か伝えたいことがあれば、お願いします。

#### 【主なご意見】

##### <寿都町-Q1>

- ・ 視察・見学はよかったが参加者が一部に限られたことが残念
- ・ 町民にも自由に公募で行けるとよかった、一部の参加者のみで参加した人も言いにくい雰囲気があった
- ・ 公募で誰でもいけますとしておけばもっと違ったかもしれない
- ・ 視察・見学はいままで想像していたものとは違って勉強になった
- ・ 自分の目で見て触れることで積極的に議論に参加できるようになった、もっと多様な人が視察に行くべき
- ・ 視察・見学は一般町民に公募すべき、一部の人を秘密裏に選定しているようなやり方はよくない
- ・ 視察・見学は全額自己負担ではなく、一部負担などであれば参加の勉強への熱意も伝わるのではないか
- ・ 反対派の人も視察・見学に連れていき、視察後に振り返りなどの時間を設けておくと有効では

##### <寿都町-Q2>

- ・ 文献調査は2年の約束が3年に延びてしまいやる気を感じない
- ・ 文献調査は国が選定して申入れをするほうが早いのでは
- ・ 対話の場以外でも町民にもっと情報提供や交流を深めることで知っていただくきっかけになるのでは
- ・ 視察見学ではなく旅行に行ってきたというだけではないか
- ・ 能登地震の能登半島や胆振東部地震もマップで緑だが説明がない
- ・ （文献調査の応募は）住民の話し合いなく申し込めるので分断が起きている
- ・ 若者には推進派と慎重派両方の話を聞かせるべき
- ・ 若者には偏った意見だけで判断させてはいけない
- ・ 原子力発電所がある限り避けられない問題であるため、国がもっと真剣に取り組むべき。NUMOが中間に立って大変な状況にあるため、NUMOにもある程度の権限を与えるべき
- ・ 町民向けで堅苦しい場では駄目

### <神恵内村-Q1>

- ・ 視察・見学は百聞は一見にしかず、安全性を確保するのにあそこまでやるのかという印象
- ・ オーバーパックの実物を見て、1000年以上もつと感じた。幌延で働く研究者や作業員の頑張りを見て、自分自身も地層処分について、勉強しなくてはと感じた
- ・ 子育て世代は視察・見学に参加できていない
- ・ 慎重に考える研究者の意見を聞きたい
- ・ 提供される情報が選別されることへの懸念が大きく、広範囲での情報提供が望ましい
- ・ さまざまな立場の人々の意見を聞ける場があってもよかったのではないか
- ・ シンポジウムには、対話の場の委員以外の人々も参加していることから、村民も一定の関心を持っている
- ・ 幌延の地下施設を見学して、地層処分についてさらに学ぶ必要性を感じた
- ・ 見学によって実物を見たことで、自分の記憶に残った
- ・ 勉強のために、もっと若い世代の人に見学してほしい

### <神恵内村-Q2>

- ・ 対話の場は円滑に進められている
- ・ スケジュールの主導権を対話の場委員にするのか、主催者側にするのかバランスをとる必要
- ・ 北海道以外の文献調査候補地をぜひ見つけてほしい
- ・ 対話の場は、事務局が望んでいるスタイルや進め方を分かった上で参加している
- ・ 賛成や反対の意思表示ができる人はそれを表明した上で参加するのが好ましい
- ・ 対話の場の参加者が、世代や性別などが幅広く、さまざまな人がいる状況を踏まえ、他の地域でも同様に満遍なく意見が聞けるように、多様な人々が参加することが望ましい
- ・ 対話の場の会則は初回で議論して作り、そこに記載されている目的は、何か問題があった時に立ち返ることもできる。他地域で場を設ける際にも、会則を最初に決めることは重要になってくる
- ・ 文献調査報告書案について、村民への周知より報道が先に出てきてしまったことへの違和感
- ・ 対話の場で提供された情報の中に、概要調査を前提としたような表現があった
- ・ 概要調査を前提とした表現に、行政の横柄さが出ている。国策として法律で決められたことを進めるという前提で物事を進めている点が問題であり、概要調査もその流れに沿っているため、これはやっている人たちの横柄さにほかならないと感じている
- ・ 報告書完成後、概要調査受け入れの意思表示がされたときに、そのまま調査するという流れになることが問題で、現状の進め方には違和感がある
- ・ 最初の説明で文献調査の説明だけで十分なはずが、処分場選定後の全体の話になってしまったことで、そこから住民が賛成派と反対派と分かれた
- ・ 国の事業であるが、地方に丸投げをし、放っておくのかという印象をもっている

#### 4. インタビューによる振り返り：対話の場に出席経験のない方

##### 4.1. 地域における位置づけ

###### 質問

Q1. 対話の場について、どのような目的で開かれる、どのような性格の会議として、捉えていましたか。

###### 【主なご意見】

###### <寿都町-Q1>

- ・ 開催は知っているが議論の中身は聞いたことがない
- ・ 反対の意見の人は参加していないのでは
- ・ 産業団体のリーダーが意見交換を行う場
- ・ ケーブルテレビで見ても背中しか見えない、議論の中身が伝わってこない印象
- ・ 参加者が家庭や町で議論したことを伝えていない
- ・ 男性にお任せの側面があるので、女性が参加する場をつくってもらうことはよい
- ・ 寿都のまちにとって処分場建設がよいと周囲の人たちと話し合うこともある
- ・ 話し合うのは同じような考え方の人が多く反対の意見の人と話しあうことはない
- ・ 賛成か、反対か誰がどの意見であるか分かるので、話は避ける
- ・ 3年たって漁師さんなど、当初から考え方が変わってきたことも実感する
- ・ 過激に反対していた人が少なくなっていまでは一部でしか聞かない
- ・ 核イコール拒絶だったが、見学に行き勉強になり、そんなに恐ろしいものでもないことが分かった
- ・ 地層処分を進めている自治体を国が発信することを言い聞かせるパフォーマンスの場
- ・ 交付金で財政のためになるのであれば黙っていようという意識からスタートしてしまったのでは
- ・ 会員の選定過程や議論も非公開でプロセスが隠されて結果だけ示されても不信に感じてしまう
- ・ いろいろなことを守ろうとしたために、町民には伝わらないものになってしまっていないか
- ・ 対話の場の非公開が一番の問題
- ・ 会議というよりもまず地層処分を知ってもらう場
- ・ 秘密裏に進めたりすることはやめてほしい
- ・ 真剣に核のごみの問題を国が考えるのであれば、日本で初めてのことをやってほしい
- ・ 参加者に年配の男性しかいない印象
- ・ 閉鎖的で説得の場、人選に問題がある
- ・ 町民に地層処分事業について一層分かっていただくための場
- ・ 場を通じて全国に発信して他自治体の応募も促すような状態を作りたかったのではないか
- ・ 団体の長で寿都をどうするのか事業を進展の是非などを議論する場
- ・ 寿都の長らがどう考えているか一般町民は知りたい

<神恵内村-Q1>

- ・ 放射性廃棄物問題や関連する産業などを情報交換する場
- ・ 内容をかみ砕いてくれてわかりやすく学ぶ場
- ・ 村のまちづくりについて意見が聞けたのは面白かった
- ・ 賛否を問わず意見を交わしたり知識を深める場
- ・ 事業を推進するための語りの場の要素が強く感じた
- ・ 地層処分事業に関する地域住民の理解を深めるための有効な会合
- ・ ある程度の方向性がある場
- ・ 慎重派の意見が孤立し、賛成派と十分に議論できない場

## 4.2. 結果のお伝え

### 質問

Q1. 議論の結果（地層処分や文献調査）は、町村民の皆さんに伝わっていると思いますか。

Q2. 対話の場のお知らせは、どんな内容だと興味を感じますか。

### 【主なご意見】

#### <寿都町-Q1>

- ・ 議論の結果は町民には伝わっていない、参加者も伝えていない
- ・ 団体の長が所属の団体内で意見の賛否があるので議論の結果を話していないのでは
- ・ 組織を背負っている団体の長より一般町民が参加したほうが話しづらいこともないかもしれない
- ・ 対話の場のような堅い形式ではなく、地域の人が自由に集まれる方法
- ・ 勉強会も町民には知られていない、NUMOが何をしているかもわかっていない人もいる
- ・ 映像もテロップを読むのは疲れるのでチャンネルを変えてしまう
- ・ 音声がないので、付箋が貼られていてもわからない
- ・ 対話の場の議論の中身そのものは伝わっていない
- ・ オープンで開かれた場にしないと町民に伝わっていかない
- ・ 町民も現会員に丸投げしてしまっている側面があり、意見をいう必要もないだろうという雰囲気
- ・ 地層処分・文献調査はなにかは伝わっていても対話の場の議論はうまく伝わっていない
- ・ 反対派は退会したのに賛成者だけで話を進めていると話がすり替えられているのは気になる
- ・ 合意形成があまりにもなかったことが問題であり、対話の場だけではなく、調査の開始の仕方も悪かった
- ・ NUMOは指針のない状態で活動していることを考慮すると、情報発信に積極的だと考えられる
- ・ 町のやっていることとNUMOのやっていることは理解してもらっているとは思わない
- ・ ケーブルテレビの放送は流れない家庭もあり、それをもって広く知らせたという認識は誤りだ。防災無線等を使うのはどうか
- ・ 神恵内では全戸訪問を実施しているが、寿都ではそのような活動がなく、NUMOを知らない人もいる

#### <寿都町-Q2>

- ・ 町のホームページは見ない、高齢者が多いのでインターネットは開かない
- ・ 反対派が新聞に折り込んで配っているチラシはよく目につく
- ・ 町民も無関心ではないがどうやって知らせるか工夫が必要
- ・ 町民もこの町をよくしたいという気持ちは一緒
- ・ 概要調査に向けてまちづくりなど希望を持って意見交換できる賛成の人が集まれる場
- ・ NUMOの事務所に入るのはハードルが高い

- ・ 集まって話すならNUMOの事務所ではなくフリースペースのほうがよい
- ・ お年寄りがチラシを読むのは難しい、気楽に話ができる場所のほうがよい
- ・ 地域に密着して話し合いの場を持つ方がお年寄りには伝わりやすい
- ・ 賛成、中立派、反対さまざまな意見を載せてあれば興味が湧くのではないか
- ・ チラシは賛成の人にはほとんど読まれていない
- ・ 一般住民には内容が伝わりにくく、情報の鮮度が落ちてきて興味が薄れている
- ・ チラシにはNUMOにとって都合の良い情報ばかりが掲載され、都合の悪い情報、NUMO側の考え等、自分たちにとって、都合の悪い点も考慮しながら行動している姿勢を示さない限り、他者からは受け入れられない
- ・ 両論併記をすることが中立な姿勢であり、それが欠けている
- ・ 開催チラシの文字が小さく、小学生からお年寄りまで、細かい情報では見ない
- ・ 寿都はお年寄りが多いため、情報発信をする際は、字を大きくする、写真を増やす等の工夫が必要
- ・ 開催結果のチラシは発行したというアリバイ作り
- ・ 神恵内のファシリテーター作成のチラシは住民視点で作成されており、見やすく分かりやすい

#### <神恵内村-Q1>

- ・ 議論の中身は村民には伝わっていない
- ・ 3年が経過して関心が薄れてきているのでは
- ・ 団体の長でも大小があり個人でも参加者はなかなかいないので、代表者が参加し持ち帰って話を広げてほしい
- ・ NUMO職員が全戸訪問で地道にお知らせをして回っていることはよく見ている
- ・ 開催チラシは周りの人も読んでいる
- ・ 文献調査に関する議論の結果は、村民に十分に伝わっている
- ・ チラシは、開催結果の報告、意見の概要のみが記載され、あまり響かない。背景等が分からないため、読むだけとなっている

#### <神恵内村-Q2>

- ・ 現在の公開の方法でよい、活字でまとめて出すことでよい
- ・ 参考文献や書籍などの紹介があるとチラシも見てみたくなる
- ・ 文章が多いと読まないが、事業内容より職員紹介の方が惹きつけられた

### 4.3. 公開制

#### 質問

- Q1. 対話の場に参加や傍聴してみたいですか。公開する場合、どこまで公開すべきと思いますか。
- Q2. 対話の場がどのような場であれば、自分も参加してみたいと思いますか。
- Q3. 対話の場の参加者の構成や進め方、町村民の皆さんへの情報提供について、どのようなご意見をお持ちですか。

#### 【主なご意見】

##### <寿都町-Q1>

- ・ 参加して皆さんの意見や気持ちを聞いてみたい
- ・ 反対の意見も寿都のまちをどう考えての反対なのかを聞いてみたい
- ・ 寿都、島牧、黒松内の近隣町村の方には公開してよいのでは
- ・ 傍聴して発言を聞いている人を観察してみたい
- ・ 公開制をとるのであれば一部ではなくすべて公開していくのがあるべき姿
- ・ 全部公開してもよいが、小さい町では発言と個人が特定されてしまうのが心配
- ・ ライブ配信の場合はノーカットですべき
- ・ もっとオープンに公開すべきだが、マスコミまで入ると意見が切り取られる懸念
- ・ 公開はせずに、文字起こしでの発信が限界では
- ・ 現場にいるかいないかで得られる情報は大きく異なる
- ・ 町民は傍聴を自由にしてもよい
- ・ ネットでの視聴が可能なら、傍聴しなくてもよい
- ・ 日本で初めて行われる取り組みであり、国民に明確に示していくためにも公開した方がよい

##### <寿都町-Q2>

- ・ 時間があえば参加してみたい
- ・ 意見が対立するわけでもないのに、参加しても構わない
- ・ 寿都では立場のある人のみが参加しているので町民には伝わらない状態が続いているのでは
- ・ 現在の構成員に加えて人数を増やした方がよい
- ・ 町民の参加など人数を増やしたほうが理解が広がるのではないかと
- ・ 対話の場という名前が堅すぎる
- ・ 現在の対話の場と異なる場がもうひとつあってもよいのでは
- ・ 場に参加するのは男性のみと考えてしまうので、女性も参加できる場や勉強会は必要
- ・ 団体の長による構成が参加しづらい環境になっていないか、参加しない会員の空席は無駄ではないか
- ・ 参加者を町民からアトランダムに公平に選ぶ方法
- ・ 参加者は公募で選び、賛成、中立、反対意見バランスに配慮する方法
- ・ 中高生も参加できる機会づくり
- ・ 町民の参加を募る場合は、匿名とする方法

- ・ 町で町議会議員を指名してもよいが、一般町民も参加したい人は参加すべき
- ・ 町の勉強会は意見交換しやすい雰囲気だが、対話の場は発言しづらそうに参加したくない
- ・ 町の主催であった方が、公の場であり、一般の人々は参加しやすいのではないか
- ・ 子供のころから原子力発電に対しては疑念があり、反対運動はするが、地層処分への議論には参加しない

#### <寿都町-Q3>

- ・ 公募がなかったことが対話の場に対する最初の不信を生んだ原因ではないか
- ・ 地層処分に批判的な意見を持った有識者を招いてほしかったがなぜ実現しなかったのか
- ・ 第三者が入るのであれば、全体を監査するのが第三者の役割
- ・ 町の指名、議題の決め方はこのままでよい
- ・ トップダウンで指名しないと自分から出たい人はなかなかいないのではないか
- ・ 日本で初めて行われたことのため、より前段階の議論から始めるべきではなかったのか
- ・ 現在の参加者の推薦となると、同じ感覚の人が選ばれてしまう
- ・ 町民の意識を高めるには、町主催の勉強会の頻度を高めるべき
- ・ 参加者の選定プロセスは疑問をもつ人も多い
- ・ 対話の場と勉強会、それぞれの進め方の公平性を確保する必要がある
- ・ 公平性の保たれた情報提供が重要であり、今後の新たな対話活動をする際にもその考えは必要
- ・ 参加者は議員が半分、女性や若い世代も少なく、選定方法も神恵内と大きく異なる
- ・ 対話の場は1つでなくてもよい、町議は別に勉強する場を設ければよいのではないか
- ・ 対話の場は対話している様子がなく、勉強会の方が盛んだと感じた
- ・ 対話の場に子育て世代等が参加した方が場が盛り上がったのでは
- ・ 会則がおかしい

#### <神恵内村-Q1>

- ・ 議論の中身は村民には伝わっていない
- ・ 3年が経過して関心が薄れてきているのでは
- ・ 団体の長でも大小があり個人でも参加者はなかなかいないので、代表者が参加し持ち帰って話を広げてほしい
- ・ NUMO職員が全戸訪問で地道にお知らせをして回っていることはよく見ている
- ・ 公開範囲は現状のままでよい
- ・ 時間の都合で傍聴が難しく、自分の考えを述べたいという気持ちがあるが、職業上の立場から考えると、思いの丈を述べることは難しい

#### <神恵内村-Q2>

- ・ 傍聴者の数はもっと増やしてよい
- ・ 村民のうち20人だけ勉強しても村民には理解が広がらない、町内会に出向く説明の場を継続してはどうか
- ・ 活発な意見公開をするためにはいまの公開のあり方でよい
- ・ 自分の意見を求められること、他の人に自分の考え方を知られることが不快

### <神恵内村-Q3>

- ・ 対話の場にも村外から傍聴に来て視察に来てほしいくらいだ
- ・ 村民全員が委員という使命を掲げるくらい、テーマごとに集める人を変えて入ってもらう方法
- ・ 中学生の意見なども面白いかもしれない
- ・ 調査地域の当事者には、消費者の視点や日本の豊かさは原子力のおかげのような説明の入り方は違うのではないか
- ・ 神恵内に永住するわけでもないのに地域のために何でもしますという言い方には違和感を感じる
- ・ 対話の場は議論の場に慣れた人が参加しないと会の趣旨に反する方向になってしまう
- ・ 村民の方を公募で何回か募集している方法でよい
- ・ 賛成、反対の有識者による対論は非常に評価できる
- ・ 参加者が固定であると同じ意見しか出ないため、さまざまな人が順繰りで参加すればよい
- ・ 団体の代表者は年齢層が高いため、役場の若い人等若い世代の意見を聞いてほしい
- ・ 公募が3名と少ない
- ・ 議員が参加できないのは、どういう仕組みだかわからない
- ・ 請願が出され、議会が採択し、住民説明会が形式的に行われたことは、十分にやったようには見えない
- ・ 国がこの問題に対してもっと責任をもつべき

#### 4.4. 設置者、国・NUMOの関与のあり方

##### 質問

Q1. 事務局はNUMOでしたが、NUMOが担うことに対し、どう思いますか。

Q2. 国の関わり方に対し、どう思いますか。どんな時に、なぜそのように思いますか。

##### 【主なご意見】

###### <寿都町-Q1>

- ・ 新たな第三者が地域に入るよりNUMOが事務局でよい、顔が見えるほうがお年寄りが安心できる
- ・ 地域ごとのやり方で、地域の人を選べばよいのでは、こうだと決める必要はない
- ・ ファシリテーションを専業とする第三者団体が運営を行いNUMOは情報提供者であるほうが透明で納得が得られる
- ・ 町とNUMOの運営では、中立は保てないので第三者機関が運営する方法
- ・ NUMOが事務局でよい
- ・ NUMOが事務局で異論はない
- ・ 対話の場には不透明な部分が多く、一部の人々はNUMOを非難する傾向にあったが、実際には役場の意向も影響していた可能性があるのではないか
- ・ NUMOは電力会社の機関であることから、地層処分については国とは別に、考えていくべきではないか
- ・ 対話の場の運営は役場がすべきであり、NUMOに任せることが問題。住民への説明は行政が行うべきであり、NUMOは両論を併記して、十分な説明を行うことが必要
- ・ 事務局はどこでもよいが、もっと公開して開かれた場にしてほしい

###### <寿都町-Q2>

- ・ 国がどのように関わっているか分からない、積極的に関与してほしい
- ・ 国は他人事ではなく事業の推進主体として積極的に関与すべき
- ・ 国は町民を説得できるようにもっと前に出てきてほしい、町長が頑張っているのとやや温度差がある
- ・ 手挙げ方式では何年も変わらないのでは、地点の選び方を変えていくべきなのでは
- ・ 神恵内と寿都の地域性や特徴には違いがあり、それらを考えた時にNUMOだけでなく、国ももっと情報発信を行うべき
- ・ 地層処分事業に対しての国の思いが見えてこない
- ・ 国がさまざまな自治体への訪問をしているものの、そのプロセスを非公開にしているため、町民からは何も見えない
- ・ 地層処分という方法ありきで事業が進められ、国からの押し付けのように感じる
- ・ 勉強会では国が率先して関わっていない

<神恵内村-Q1>

- ・ NUMOが事務局となり情報交換や勉強を重ねられていることはよい
- ・ 進行はどこにも属さない第三者の組織がやる方法
- ・ 第三者機関のように中立的な立場の人を運営に入れるべき
- ・ 地上保管の話などNUMOとは異なる説明や知識が入ってくるような機会を工夫してほしい
- ・ NUMO職員は一生懸命、地域に密着して溶け込もうとしてやっている
- ・ 対話の場立ち上げ時に住民の情報を活かして進めていくことがはじめにできていなかったのでは
- ・ 対話の場とは本来どうあるべきだったのか疑問に思う

<神恵内村-Q2>

- ・ 国や道経局の関与は現在の形でよい
- ・ 国が積極的に関与していることが村民にも伝わるとよい
- ・ 開始時に地域住民を大事に思うなら、村、議会、国、NUMOがもっと配慮してほしい
- ・ 国はNUMOに任せっきりでないことがよい
- ・ 国は傍観者に見える
- ・ 国は、地元の意見を十分に考慮すべきであり、国が率先して適地を探すべき

#### 4.5. その他視察等

##### 質問

- Q1. 見学や視察、その他活動は、皆さんの地層処分の安全性に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。また地層処分事業について、理解を深めることにつながるものでしたか。
- Q2. どんな活動やイベント、あるいは工夫があれば住民の方々が参加しやすくなるでしょうか。
- Q3. 対話の場の運営について、国やNUMOに何か伝えたいことがあれば、お願いします。

##### 【主なご意見】

###### <寿都町-Q1>

- ・ 視察・見学で安全性について体感することができた
- ・ 視察で町が発展していくイメージを掴むことができた
- ・ 最初は怖いイメージがあったが実際には安全性の研究は思っていたのとは違った
- ・ 視察・見学の際にも批判的な有識者を同行させる方法
- ・ 視察・見学も推進、慎重の両意見の人が同行して両方の話を聞くなどの方法
- ・ 他の視察・見学の企画では地元の慎重派の住民の話を聞いて両方の意見を聞いた
- ・ 視察・見学は理解を深め、勉強しようという気にさせた
- ・ 旅行感覚ではなく視察・見学は本当に興味がある人が行くべき
- ・ 慎重な立場として視察に参加したが、視察スケジュールに対し、疑問を抱いた

###### <寿都町-Q2>

- ・ 新たに移住した方や働く世代や子を持つ世代が参加できる場
- ・ 興味のない人を無理に視察・見学に参加させるのは難しい
- ・ 町内会の班単位での説明会や勉強会を実施する等、町民の要望を広く拾っていった方がよい
- ・ 見学や視察には慎重な意見をもつ専門家も同行した方が、批判的な考えをもつ人にとってもよいのではないか
- ・ 生配信や録画を通じて、対話の場をよりオープンにし、視聴者が自分の都合に合わせて視聴できるようになるとよい
- ・ 対話の場を完全に公開し、その後オンラインで感想を共有できる場を提供することで、全国の人々が参加できる場になるのでは
- ・ 対話の場と勉強会意外にも、会館単位でくつろぎながら話す機会があってもよいのでは
- ・ 若い世代へ理解を深めるには、説明会形式ではなく、ゲーム感覚で参加できるような場があってもよいのでは

###### <寿都町-Q3>

- ・ 個々には視察・見学や勉強してこれたが、町民全体への理解という点では足りなかったのではないか
- ・ 対話活動もいろいろトライしてダメだったら直していけばよいのでは
- ・ けんかするわけではないので意見の違う人との対話の機会もあってよい

- ・ 視察・見学に行った人が、賛否関係なく振り返りを行う場も必要
- ・ 分断はないというが分断が起きている
- ・ 事業者は反対の意見にも耳を傾けて、受け入れるキャパシティーを持ってほしい
- ・ 情報提供は偏っていて納得できていない
- ・ 寿都和神恵内で、地域とNUMOとの関係に温度差がある
- ・ NUMO職員の拠点が移ったことにより、地域との関係性をもっと深めてほしい
- ・ 全国的に問題意識をもつには、開かれた場で町民一人ひとりが話せる場を作り、そこで全体で考えることが重要
- ・ 多様なステークホルダーが参加される場としてほしい
- ・ 文字だけではなくて、ファシリテーショングラフィックや音声録画などを併用して場の雰囲気も伝わるようにしてほしい
- ・ 公開討論会などの町民や町外民の場づくりへ全面的に協力してほしい

#### <神恵内村-Q1>

- ・ 神恵内は人口減少で経済が生まれなことが危機、岩宇周辺4町村で協力して進めたい
- ・ 視察・見学の際に地元の人と情報交換してみたい
- ・ 視察・見学は百聞は一見にしかずで大変な勉強の機会になった
- ・ (風評や放射線知識など)正しい理解が得られるようにしてほしい
- ・ (多数決で議会で承認・請願できたとしても)住民が十分納得できていない部分が残る
- ・ 紙媒体だけの情報では分からないため、実際に見学することは重要
- ・ シンポジウムで慎重派の先生が登壇されたことは驚いた
- ・ 施設見学後にざっくばらんな感想を言い合える場があるとよい

#### <神恵内村-Q2>

- ・ 対馬の人らがどう思っていたのか聞いてみたい
- ・ 以前、別の活動で、参加者がグループ形式で村の将来をテーマに話し合い、その結果を大きな模造紙に切り絵で表現したことがある。その際には、参加者で食事をとり、バスで村内を移動し、子供からお年寄りまで多く参加した。NUMOでも村の将来を考える機会や、模造紙等で表現してみることで、地層をバスで巡る等半日程度で行ったらどうか。

#### <神恵内村-Q3>

- ・ 住民がどの程度理解しているのかアンケートをとってはどうか
- ・ 委員の意見が全てではないが、知識もなく理解も深まっていないので地域の意見をどうとりまとめるのか
- ・ 団体の長であっても場の意見はあくまで個人であり団体を代表した意見ではないことに留意
- ・ 毎月には負担感が強い、3か月に2回程度が妥当、必要に応じて臨時に開くなど
- ・ オブザーバーで意見の異なる有識者を呼ぶことはできないか
- ・ メリット・デメリットの片方だけでは誤った理解を住民に与える(両方必要)
- ・ 放射性廃棄物、放射線については誤った考えが広まっており、一人一人が正しい知識をもってほしい

#### 4.6. その他（寿都町の将来に向けた勉強会）

##### 質問

- Q1. 町の将来に向けた勉強会は、参加してどうでしたか。よかった点、もう少しこうしたいと思う点は、ありますか。
- Q2. 町の将来に向けた勉強会は、皆さんの地層処分の安全性に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。
- Q3. また地層処分事業について、理解を深めることにつながるものでしたか。

##### 【主なご意見】

###### <寿都町-Q1>

- ・ 対話の場と勉強会で内容面で格差ができていたのは不満
- ・ 福島第一の視察が実現しなかったことは残念
- ・ 都合が悪いことは見せないという状況は信用をさらになくす原因
- ・ 勉強会は慎重な意見の人とテーブルでお互いの話を聞いたことがよかった
- ・ まちづくりでは同じ目線で議論ができ、お互いの意見や立場も理解できたことは称賛に値する
- ・ 勉強会に参加して理解が深まり、人に話せるようになった
- ・ 勉強会は知り得ないような情報、自分では調べないだろうっていう情報が提供された
- ・ 賛成、反対の両専門家による対話の場を聞いてみたかった
- ・ 対話の場同様、意見の反映の仕方や運営の在り方が公正でない

###### <寿都町-Q2>

- ・ 地層処分とまちづくりは別物なので、勉強会でも分けて議論する方法もあった
- ・ まちづくり議論とは切り離して純粋に原子力政策を勉強した方が、お金の話がちらつかなくてよいのではないか
- ・ 安全性に関する考え方は理解できたが、絶対ではないのでいろいろな情報に接触するとわからなくなる
- ・ 勉強会では地層処分事業について、理解を深められたが、理解が進むにつれて納得できない点が増えた

#### 4.7. アンケートによる自由記述

##### 質問

Q1. 地域の皆さまの見たい、知りたい、勉強したいというご要望に応じたNUMOの対応について、どう感じましたか。

##### 【主なご意見】

##### <寿都町-対話の場現会員の方>

(十分)	(不十分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞きたいことは対応いただいている、もっとNUMOと住民とを交えた話し合いの場ができるといい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし、自分達からの発信しかない広い立場で意見を知らせる姿勢が欠けている</li> <li>・ 住民にわかりやすい説明ができるかは難しいが、現状のままでは理解が深まっているかは疑問</li> </ul>

##### <寿都町-対話の場旧会員・退会会員の方、勉強会メンバーの方>

(十分)	(全く不十分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状、町民の声をしっかり受け止めていると感じる。様々な要求に対しての見解や資料提示など、丁寧な対応に満足。まちづくりには大変興味があり自身は多くの視察に同行できており、今後の議論に役立つと考えている。今後も視察の機会を多くしてほしい</li> <li>・ 20年11月25日以来、NUMO寿都町担当と町民と一緒に課題に取り組む姿勢は伺える。インタビュー方式で率直な意見を聞くことは良い、賛成派と一緒だったため、反対派の意見が聞けなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福島第一発電所および語り部の視察を先送りし続けていること。まちづくりの勉強にあたって、有識者の参加要望が実現していないこといつの間にか各原子力関連施設への視察が行われており、特定の人間に声がけしているようにしか感じられないことが何度もあった。視察が企画されるごとに全メンバーに文書通知をすべき</li> <li>・ 対話そのものが非公開であり、終了後に発表報告があるものの、その内容が真実に基づいているか、工作されているか担保がない。報告される地層処分情報は推進側に都合のいいもので、文献やネットで十分知りえる程度のもの</li> <li>・ 賛否関係なく、平等・対等に対応すべき。「知る・学ぶ」際には、賛否両方の考えを持つ人達による説明や講習を行わないと、学び方が偏ることになるからフラットではない。国、NUMO側に都合の良いことだけを吹き込んでいるようにしか見えなかった</li> </ul>

##### <神恵内村-対話の場現委員の方>

(十分)	(不十分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長い時間をかけて私たちの疑問に対応してくれている</li> <li>・ 神恵内を知らなかった方々が地域に寄り添ったイベントに参加されてありがたい</li> <li>・ NUMOの対応はとても良い、興味ある人にしか理解がないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご意見なし</li> </ul>

質問

Q1. 国の関わり方について、どう思いますか。どんな時に、なぜそのように思いましたか。

【主なご意見】

＜寿都町-対話の場現会員の方＞

(不十分)	(全く不十分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>国民全体で考えなくてはならないこと。調査に手を挙げた町村のことを考え、もっと国が介入していい。調査候補地に名乗りをあげる自治体を増やせるようにもっと国が介入していい</li> <li>もっと前に出での説明が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の関わり方というよりも考え方が間違っている。六ヶ所再処理工場も26回工事が延され、破綻しているのに、稼働にこだわり税金投入されている。能登半島地震を見ても、科学的特性マップが如何にデタラメかがわかる。日本は地層処分ではなく、他の考え方を検討すべき</li> <li>話し合いをしている事は、国会議員たちには「田舎の素人が適当に集まって話している」くらいの認識なのでは</li> </ul>

＜寿都町-対話の場旧会員・退会会員の方、勉強会メンバーの方＞

(十分)	(不十分)	(全く不十分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>国の関与には二面性があり、関与することで事業の前進は期待できるが、国民の理解を得るのに直結するとは考えにくい。国が前に出ても収用方法等々で地域の意思が優先できない場面も考えられる。地域が悩み苦しんでも解決する意思は地域の意思であるべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話の場は経産省職員も傍聴しているのに、まちの将来に向けた勉強会には出席していない</li> <li>インタビューで参加者の発言に同意する部分があった。経産省次官クラスが寿都町のために行動している報道が伺えない。一度経産省と町民と対話の場があってもいいか。NUMO任せに感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の関わりは何をもって評価すべきなのか不明。金で理解という言葉を買っているに過ぎない。「大切なエネルギーを紡ぐ私たちの未来(2024.2.21)」の国のあいさつでも対話の場の実施回数が理解度の尺度のように話している。授業の出席日数の量が理解力ではない</li> <li>対話の場も勉強会の場にも「国の人間」が常にいるべき。NUMOだけだと「知りたい」と思った時に、いつも回答が先送りになる。常にいればリアルタイムにスムーズにできるのではないか</li> </ul>

＜神恵内村-対話の場現委員の方＞

(十分)	(どちらでもない)	(不十分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>質問に答えたり、追加説明も状況に応じ対応してくれている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手を挙げた自治体を守ってほしい、早く全国に打診してほしい</li> <li>物足りない気がするが、国としては限界か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もう少し対話の場に参加してほしい</li> <li>全国的な理解活動の推進</li> <li>もう少し積極的な雰囲気してほしい</li> </ul>

## 質問

Q1. インタビューでは、言いにくかったことはありますか。国やNUMOに何か伝えたいことがあれば、お願いします（自由記述）

## 【主なご意見】

### <寿都町、神恵内村>

- ・ 「対話の場」を良くしたいと思ったからの参加ではない
- ・ マスコミも住民もシャットアウトして行われた「対話の場」
- ・ 地域住民は「対話の場」に関心はない
- ・ いつ開催されているのかも不明
- ・ こんな「対話の場」をやって、「住民の理解を得た」と発信されては困る
- ・ 政府の政治的決断が必要
- ・ もっと寿都町や神恵内村へ手厚い支援を
- ・ 電源立地交付金の使用目的を緩和してほしい
- ・ マスコミや反対の声を聞く中で、それなりの支援を
- ・ 国会議員の資質に問題あり。発言に責任を持つべき
- ・ 「北海道の片田舎で申し込みしたんだから。ほぼ決まったんじゃないか」といった話が聞こえたことあり
- ・ 国会議員で、住民同等以上の知識を持っている人はいるのか
- ・ 地域の代表として出席しても誹謗中傷の嵐
- ・ 我関せずの議員、風見鶏の知事、国として難題に面している人はいるのか
- ・ 町長が強く言ったから、全国各地で説明会をしてるのではないか
- ・ 野党一部が反対派を応援しているが、反対以外の代案は出しているのか
- ・ 「自然を破壊」するような言い方をしているが、実際に事故が起きる確率はどれほどなのか
- ・ 万が一、億が一、兆が一かもしれない確率を、確実に起こるかのような説明はどうなのか
- ・ 強く反対する人は野党に属している人が多く、「政争の具」にされている
- ・ 「対話の場」が文献調査終盤で開催されなくなった。今後も継続して行う必要がある
- ・ 町長も住民投票は、住民にも十分な知識を得てからの発言
- ・ オンラインアカウント「NUMO ROOM4」の参加者がいた、監視されているような気がして気味が悪い
- ・ ファシリテーターも振り返り対象とすべきと思うが、目の前にいるため評価できなかった
- ・ 神恵内村と寿都町の対話の場、まちの将来に向けた勉強会で、参加者要望に対する対応が違いすぎる
- ・ 国は「対話」に必要な環境作りに明文化した基準を使ってほしい
- ・ 特定放射性廃棄物小委員会には、委員によるNUMOへの意見聴取を実施すべきとの意見があり、実現すべき
- ・ 調査に手を挙げる時点で自治体の意思として、①最終処分場建設に向けて調査受け入れ②処分場受け入れは反対だが、自治体の意思が示せる文献～概要調査はぜひ実施したい。最終処分法や関連省令等でこの見解が正しいとは考えられない
- ・ 数十名の方がインタビュー参加されているが、今までの経過報告が知りたい
- ・ 国がNUMOに対して、隠れた情報が入っていることが見え隠れしている
- ・ 情報開示が難しい空気感が見える

- ・ NUMOの活動が与党派政治活動の町民に伝わっていない。TVでの与党議員からの現状説明を願う
- ・ 参加者から、対話の場に選ばれた方が、仲間達・秘書役を参加させる考えの発言があり、これに賛成
- ・ 話しにくい印象はなかった
- ・ 総括に向けての聞き取りであるのだから、町の中に分断と住民間の疑心暗鬼を持ち込んだ張本人である行政の長と、事務方を務めた企画課長をはじめとする全関係者へのヒアリングを、第三者専門家に実施させるべき
- ・ 首長やNUMO、場にかかわったファシリテーターもインタビューの対象になるべき
- ・ インタビュー依頼時に、あるべき選択肢(NUMO、ファシリテーター、調査会社)が提示されていない人が何人かいることが分かっている
- ・ NUMOが「インタビュー対象だ」と言っていた幌延視察の人たちがインタビューの依頼すら受けていないことも分かっている
- ・ なぜ人によってやり方が違ったり、そもそも嘘をついているのか。不公平、不誠実。信頼なんてできない
- ・ インタビューで言いにくかったことはないが、依頼時におかしな点が多々あった。録音することが決まっているのに、町民側の録音は拒否、録音の開示も拒否。企画書での質問内容提示など「国とNUMOで決めたことだから」という言い訳も納得できない
- ・ 地層処分のあり方自体、全国民で議論しなおすべき
- ・ 「原発」はもうやめる。その上で今ある各ゴミをどうする？の議論はいいが、「原発をこれからも動かし続けるために作る処分場」は論外
- ・ 本アンケートも無記名と言いながら、記入後に個別にNUMOに提出となっている。返信用封筒など付けて、匿名性を担保すべきでは

## 5. ファシリテーターによる振り返りのまとめ

第1回特定放射性廃棄物小委員会（2023年10月13日）において、寿都町、神恵内村「対話の場」ファシリテーターによる振り返りを実施しました。両ファシリテーターには、「場の設置における大切ポイント5項目」を中心に振り返っていただきました。

### <寿都町ファシリテーター・竹田宜人氏>

資料9

#### 寿都町対話の場のファシリテーターとしての振り返り

- ① 対話の場の準備・進行に当たって、留意・実践していること
- ② 対話の場の運営方針の実践状況について
- ③ 対話の場を重ねる中で、うまくいったこと・よかったこと
- ④ 対話の場を重ねる中で、こうした方が良かったな・今後改善できるなどと思うこと
- ⑤ 将来、対話の場を他地域で実施する際に参考となりそうな経験・教訓
- ⑥ 対話の場を含めた対話活動全体に関する総括に当たって、留意したほうがよいと思われること

2023年10月13日 北海道大学 竹田 宜人

1

#### ①対話の場の準備・進行に当たって、留意・実践していること

ファシリテーターに徹すること

【準備】

- ・ステークホルダー（会員、町役場、NUMO（交流センター）、国）への配慮
- ・運営・進行等に関するノウハウは提案するが、判断はステークホルダーに任せること
- ・運営・進行等に関する意見や考え方は発信しないこと

【進行】

- ・安心して発言できる場づくりに留意すること

・できる範囲で、正確に記録すること

2

② 対話の場の運営方針に対するコメント

ファシリテーターとしてコメントが可能な点は③、④、⑤。①、②は場の建付けとして、準備、計画時に議論すべき問い。

① 参加者の意向を尊重しているか

② (地層処分事業受入の) 合意形成の場ではない

③ 公平性、中立性の担保

事業への賛否に係らず情報提供や意見交換ができる環境の形成 → 課題1

④ 透明性、公開性の確保

人権に配慮した透明性・公開性の担保の追求 → 課題2

⑤ 議論の内容の共有

町民の皆さまへの情報提供の継続 → 課題3

3

対話の実装における課題1

課題1 対話の環境の形成 話しやすい環境とは何か 参加者に応じた手法の選択

自由に話せる場

記録する

まとめる

公開する



4

まとめる (模造紙と付せんによる構造化)



5

## 対話の実装における課題2

課題2 社会から要求される議論の透明性・公開性と参加者個々の人権や思いへの配慮

ステークホルダーの多様性 → 研究目的や興味関心において参加する場ではなく生活の一部であること

「透明性・公開性」、「基本的な人権（自由な発言の権利）」、「責任や安全への配慮」の調和



6

## 対話の実装における課題3

課題3 議論の内容の発信と共有



7

「発信」として大切にしたい「振り返り」



対話の場の振り返り。メディア向けは別途実施

8

**③ 対話の場を重ねる中で、うまくいったこと・よかったこと**

自由な発言と対話が行われたこと

適切な記録を残せるようになったこと

対話の継続を求める意見が常に得られたこと

ステークホルダー間の対話が、社会の枠組みにおいて一般化したこと（対話の場だけでなく）

**④ 対話の場を重ねる中で、こうした方が良かったな・今後改善できるなと思うこと**

振り返りの工夫（ファシリテーターの説明責任の場：より丁寧に）

対話の担い手とその保護を目的とした制度的枠組みの提案（だれが、ファシをするのか）

適切なアクターや運営主体はだれか（誰が対話するのか、だれが組み立てるのか）

ノウハウの蓄積とマニュアル化、普遍性の発見、発信（他の場所で行うためには）

意見や態度の多様性への理解

9

**⑤ 将来、対話の場を他地域で実施する際に参考となりそうな経験・教訓**

会の状況（自由参加、指名制、応募制）によって、方法を工夫する柔軟性

ワークショップでも教室でもないことへの関係者の理解（特に研究者）

人権への配慮。公開性・透明性との調和

**⑥ 対話の場を含めた対話活動全体に関する総括に当たって、留意したほうがよいと思われること**

新たな振り返りの手法の導入。第三者の評価ではなく参加者が自ら振り返りを行う。

→ 参加型評価 ピアレビュー評価（相互評価）

10

ご清聴ありがとうございました



11

## 議事一覧（ご参考）

### 2021年

- ① 4/14 会則について
- ② 6/25 会則について、地層処分について思うこと
- ③ 7/27 地層処分事業
- ④ 11/10 地層処分事業
- ⑤ 12/14 視察報告

### 2022年

- ⑥ 1/19 町民の皆さまに地層処分を知って頂くための取組、地層処分の安全確保の考え方
- ⑦ 2/16 放射線の基礎知識
- ⑧ 3/15 文献調査の進捗状況、町民の皆さまに分かりやすいパンフレット
- ⑨ 4/26 六ヶ所村の歩み
- ⑩ 5/27 エネルギー政策について
- ⑪ 7/21 文献調査の進捗状況
- ⑫ 9/21 海外先進地の状況について
- ⑬ 11/15 将来の町の在り姿について
- ⑭ 12/19 将来の町の在り姿について、文献調査の進捗状況

### 2023年

- ⑮ 2/21 将来の町の在り姿について、文献調査の進捗状況
- ⑯ 5/9 将来の町の在り姿について、文献調査の進捗状況
- ⑰ 9/5 文献調査に関する説明の振り返り、経済社会的観点からの検討に関する評価

12

出典：総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 第1回 特定放射性廃棄物小委員会 資料9（2023年10月13日）

## 神恵内対話の場の振り返り

神恵内対話の場ファシリテーター  
NPO法人 市民と科学技術の仲介者たち  
代表理事 大浦宏照

1

### 本日のお題

- 自己紹介
- 対話の場のデザインプロセス
- 対話の場の振り返り
- 対話の場の運営方針5点に基づく振り返り
- うまくいったこと・よかったこと
- 今後改善できるかもしれないと思うこと
- 他地域で対話を実施する際に参考になりそうなこと
- 対話活動総括にあたって留意したほうが良いこと

2

### 自己紹介

第1回対話の場の資料から

3

当面神恵内の対話の場は、



大浦宏照（おおうらひろあき）



佐野浩子（さのひろこ）

の二人が皆さんのお世話をさせていただいています

4

## 大浦の自己紹介

本業は災害の調査を専門にするエンジニアです



10年くらい前から高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する勉強会を企画・運営したりしています。



## 佐野の自己紹介

臨床心理士・ファシリテーターという仕事をしています。



普段は、病院や企業などで話をじっくり聞く話し合いの場の交通整理のお手伝いなどを行っています。

違う立場・違う意見の人が話し合って、お互いが納得できる地点に立てることを目指しています。

6

一つのテーマをめぐって、様々な立場の人が集まり、話を聞き合う会(オープンフォーラム)を開催したりしています



7

対話の場で毎回お見せするスライド

### NPO法人

市民と科学技術の仲介者たち

モットー

- 私たちは、市民が科学技術を良く知り、**正しく恐れる**活動に関わります。
- 私たちは、科学技術問題を扱う場の**仲介者**として、企画と進行をお世話します。
- 私たちは、**予め答えが決まっている場には関わりません。**
- 私たちは、**何らかの答えを誘導するような行為には関わりません。**



NUMO ホームページから

8

対話の場で毎回お見せするスライド

### 私たちは誰のためにここにいるのか？

私たちは、

今日この場に参加してくださっている皆さん  
神恵内村に心を寄せてくださっている皆さん  
将来世代の皆さん

のために、この場にいます。



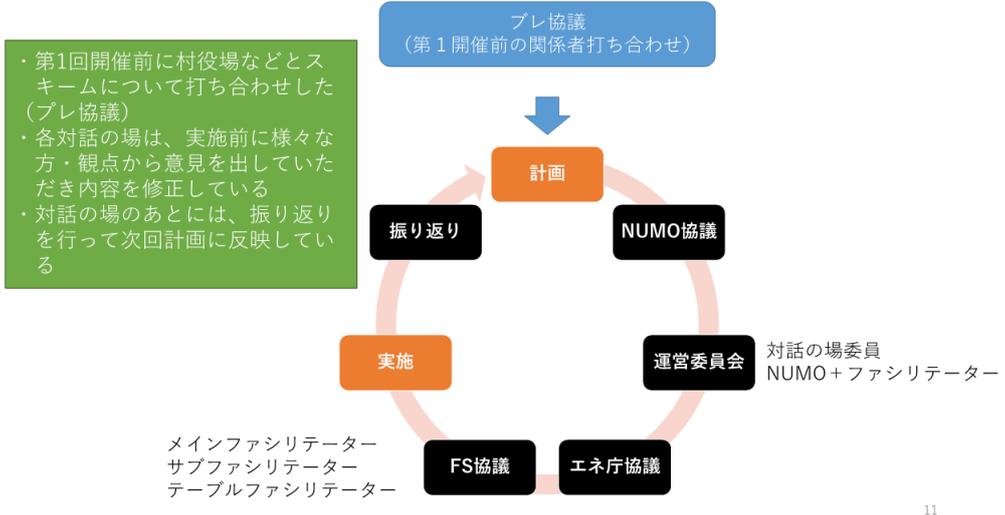
NUMO ホームページから

9



# 対話の場のデザインプロセス

10



## プレ協議の主な内容



- ・対話の場のイメージ (p8・9) を共有
- ・対話の場の委員の選出方法について話しあい  
 関係団体の代表+公募=20名を定員とする  
 できるだけ若い人・女性に入っていたかく  
 村長・村議は原則として出席しない
- ・委員の話し合いで進め方や各回のテーマを決める
- ・運営委員会を置く

NPO法人 市民と科学技術の仲介者たち  
 モットー

- ・私たちは、市民が科学技術を良く知り、正しく恐れる活動に関わります。
- ・私たちは、科学技術問題を扱う場の中継者として、企画と運営者の役割をします。
- ・私たちは、市民が安心して参加できる場には関わります。
- ・私たちは、互いの意見を尊重するよう努力に努めます。

私たちは誰のためにここにいるのか？  
 私たちは、  
 今日この場に参加してくださっている皆さん  
 神奈川村に心を寄せさせてくださっている皆さん  
 未来世代の皆さん  
 のために、この場にいます。

12

## 運営委員会



- 委員から3名互選 + NUMO + ファシリテーター  
(大浦・佐野) で構成
- 対話の場の開催前に各回のテーマや進め方について話しあう
- 活発な意見が出る

### 運営委員の提案例

開催時期について→村の行事や漁の予定と整合を取る

対話の場のテーマ→村全体にアンケートを取る

運営委員会で村の方のご意見を伺って計画に反映することが、きめの細かい対応につながっている

13



## 神恵内対話の場の振り返り



14

## 神恵内対話の場のテーマ (2021年度)

回数	開催日	内 容	テーマの分類			
			A	B	C	D
1	2021/4/15	会則・対話の場のルールの話しあい	●			
2	2021/6/30	会則修正案・公開方法の話しあい 運営委員の選出 文献調査の進捗 地層処分について思うこと	●		●	
3	2021/8/5	文献調査の進捗 対話の場でどのようなことがしたいですか？	●		●	
4	2021/10/15	地層処分の概要と文献調査		●	●	
5	2021/12/9	幌延視察報告・北海道条例の説明(北海道) 文献調査をやってみよう・文献調査の質疑		●	●	
6	2022/3/29	文献調査の進捗 文献調査に関する質疑(前回の続き)			●	

対話の場の進め方について皆さんの意見を伺った

テーマの分類  
A 進め方  
B 地層処分  
C 文献調査  
D まちづくり

15

## 神恵内対話の場のテーマ（2022年度）

回数	開催日	内容	テーマの分類			
			A	B	C	D
7	2022/4/2	地層処分に関するリスクと安全対策		●		
シンポジウム	2022/5/2	地層処分制度から見えた課題 等 伴英幸氏 高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する 技術と課題 吉田英一氏		●		
8	2022/6/9	シンポジウムの振り返り	●			
9	2022/9/8	文献調査の進捗 地層処分に関するリスクと安全対策		●	●	
10	2022/10/17	これまでの「対話の場」の振り返り		●		●
11	2022/12/5	文献調査の進捗 交付金と地域振興			●	●
12	2023/2/7	文献調査の進捗 交付金と地域振興			●	●
13	2023/3/29	文献調査の進捗			●	

「多様な意見を伺いたい」という要望に応えた

「消化不良のテーマがある」という意見に応え、様々なテーマを話せる場

テーマの分類  
A 進め方  
B 地層処分  
C 文献調査  
D まちづくり

16

## 神恵内対話の場のテーマ（2023年度）

回数	開催日	内容	テーマの分類			
			A	B	C	D
14	2023/6/8	文献調査の進捗 まちづくりについて			●	●
15	2023/7/27	放射線の基礎知識		●		
16	2023/9/26	海外の事例紹介				●

テーマ別の取り扱い回数

A 進め方	4回
B 地層処分	7回
C 文献調査	10回
D まちづくり	5回

2つ以上のテーマを扱った回があるので合計は実施回数と合わない

17

## 公開に関する問題

- 公開が望ましいことは役場・NUMO・国・委員も理解している
- 委員からは公開に関する不安の声があった
- 「不安に寄り添う場」を目指すにあたって、むやみに公開できない

↓

運営委員会・対話の場で公開方法を話しあい

↓

冒頭の情報提供と最後の振り返りを公開とする



18

## 対話の場の運営方針5点\*1) に基づく振り返り

運営方針*1)	これまでの取り組み
参加者の意向を尊重	委員の意見・住民アンケート・運営委員会を通じて参加者の意向を反映している。
合意形成の場ではない	賛否については問いを立てない。不安や迷う気持ちを尊重している（シールは2枚以上貼って良い など）。
公平性、中立性の担保	公開での質問、テーブルワークでの小さな声の拾い出しなどを通じて公平性を担保する。多様な意見を紹介する場（シンポジウム）などを通じて、バランスの取れた運営を行う。
透明性、公開性の確保	委員の自由な発言を妨げない範囲で、可能な限り公開での話し合いを行う。公開レベルは今後も見直す。
議論の内容の共有	NUMOのHPで資料・映像・ふせん・議事録を公開。NUMOは対話の場の記録を全戸に配布。「オスコイ通信 神恵内対話の場から」を発刊して、NUMO以外の視点から情報を発信。

< \* 1 > 「対話の場」の運営方針（2023年5月23日第39回放射性廃棄物WG資料3）（抄）

19

## オスコイ通信 神恵内対話の場から



- ・地層処分事業者以外から対話の場について情報を発信したい
- ・市民の目線から多様な意見や気持ちを伝えたい



- ・ファシリテーター（佐野）が委員にヒアリングし、仲介者の会が発刊
- ・村役場を通じて神恵内村全戸に配布
- ・全6号を発行（2023/10現在）

仲介者の会：NPO法人 市民と科学技術の仲介者たち

20

## うまくいったこと・よかったこと

- ・対話の場のメンバー構成は、話しやすい場づくりという観点でよかった
  - 村長・議員が参加しない、若い人・女性をできるだけ多くする
- ・委員の意見を聞きながらゆっくり進められた
- ・テーブルファシリテーターと少人数グループによる進め方は、話し合いの活性化に役立った
- ・原則が侵されそうなときに踏みとどまることができている
- ・グループワークは止まらないくらい活発な話し合いができている
- ・少数意見を委員自らが拾う場面がある
- ・結果としてふせん約800枚の意見・疑問を拾い出すことができた



21

## 神恵内で今後改善できるかもしれないと思うこと

- ・長いスパンでの大まかな計画があるとやりやすい
- ・公開のレベルを少しずつでもあげられないだろうか
- ・文献調査の結果は中学生でもわかるような資料がほしい



この資料を住民に読み取ってほしいと言っているのは難しい

## 他地域で対話を実施する際に参考になりそうなこと

対話の場の目的・願いを明確にする

何人参加したか、計画通りに進んでいるか、上位計画との整合性ははかられているか、何人に結果がリーチしたか・・・

多様な方が参加しているか、参加者が納得して進んでいるか、参加者が理解しているか、少数意見が尊重されているか、活発な話し合いがなされているか、参加者は「次もまた来たい」と思っているか・・・

大切なことは数字だろうか？

説明会じゃダメなの？



## 他地域で対話を実施する際に参考になりそうなこと

地域特性にあった対話の場をデザインする

- ・グラウンドデザインをだれがどのようにして決めるのか
- ・メンバーはどのような構成・集め方が良いのか
- ・募集するとき何を約束するのか
- ・開催する曜日・時間帯
- ・心のケアは必要なのか

海外事例も参考にすると良さそう

他地域で対話を実施する際に参考になりそうなこと

理解していただくことを大切にする

- ・「説明責任」の再定義が必要
- ・対話するには理解していただく必要がある
- ・資料は簡潔に見やすく
- ・様々な方法を試す
- ・何度でも説明する
- ・停滞・後戻りを恐れない
- ・理解していただいていることを確認する

25

対話活動総括にあたって留意したほうが良いこと

地域の幅広い声を聞いていただきたい

- ・そこに住む人たちが感じていることを聞いていただきたい
- ・できれば、周辺地域の声も聞いていただきたい
- ・伝わっていること・伝わっていないことを整理していただきたい
- ・感情や気持ちを持つに至ったプロセスを見極めていただきたい

26

参考資料

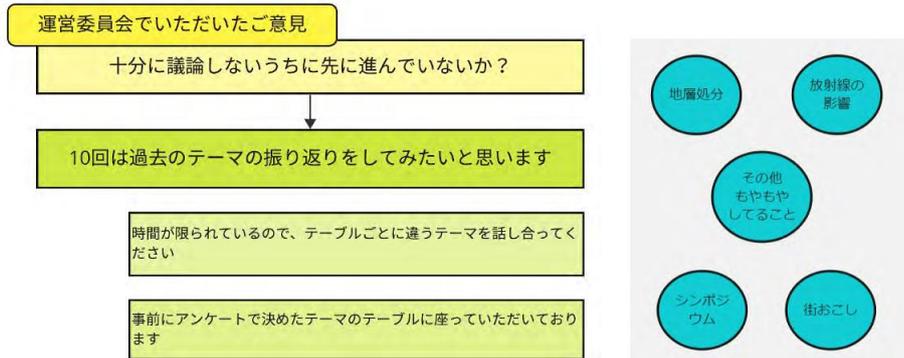
27

## 神恵内の対応例（スライド23-25補足）

対話の場の目的・願いを明確にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話の場・運営委員会・アンケートなど多様なチャンネルを通じた市民の要望の聞き取り</li> <li>ファシリテーターの役割を毎回確認（スライド8・9）</li> <li>対話の場の最後に「この話題はこれで終わっていいですか」と問いかける</li> <li>テーブルファシリテーターを通じた委員の発言状況・理解状況の確認</li> </ul>
地域特性にあった対話の場をデザインする	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブレ協議を通じた関係者（村・国・NUMO・ファシリテーター）の認識のすり合わせ             <ul style="list-style-type: none"> <li>メンバー構成（女性・若い世代を多めに・・・）</li> <li>合意を求めない・ファシリテーターの中立性（スライド8・9）</li> </ul> </li> <li>運営委員会を通じた地域のニーズの把握             <ul style="list-style-type: none"> <li>平日夜・地域行事との整合・進め方</li> </ul> </li> <li>対話に慣れていただくための計画             <ul style="list-style-type: none"> <li>投票の匿名性の確保・グループワークは慣れてから</li> </ul> </li> </ul>
理解していたことを大切に	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明資料のチェック</li> <li>説明を途中で切る、要約をファシリテーターから述べる</li> <li>実技の導入（地図に地質や鉱山を重ね合わせる・放射線の測定など）</li> <li>グラフィッカーによる補足説明（やりすぎると中立性に疑義が生じる）</li> <li>時間が不足しているときには後日同じテーマを扱う（第6回）</li> <li>もっと話したかったことを扱う場を設ける（第10回）</li> </ul>

28

## 第10回「対話の場の振り返り」の資料



途中からテーブル移動を可とした

29

出典：総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 第1回 特定放射性廃棄物小委員会 資料10（2023年10月13日）

## 6. インタビューによる振り返りを踏まえたNUMOによる受け止め

今後に向けて3つの視点・5つの観点（場づくりの際の大事なポイント）にて、インタビューによる振り返りを踏まえたNUMOとしての受け止めを整理しました。

### （1）総括

2020年11月より、北海道寿都町、神恵内村での文献調査の実施に際し、それぞれの町村に「対話の場」が設置され、NUMOは事務局としてその支援にあたってきました。NUMOとして2000年の組織設置以来、初の文献調査であるとともに地域の皆さまとの対話の機会においても、すべて初めての試みでした。

当初の2年を超える調査期間において、地域の皆さまの意思を尊重しながら、住民の方々には地層処分事業についてなるべく多くの知っていただく機会をつくる努力を重ねてきました。それらは、NUMOとしても極めて貴重な機会であったとともに、地域における対話活動のあり方を考える好機にもなりました。

今回、文献調査の途上にも関わらず住民の多くの皆さまの協力を得て、地域の多様な声を基にした振り返りを実施しました。インタビューを通じて見えてきたことは、地層処分事業の理解の広がり、不安やご懸念などの解消、意見の多様性に配慮した参加の機会が十分でなかった点です。一人ひとりが十分な情報提供や意見交換の機会を得て、意見形成を図ることができたか、その点についていくつかの課題を残したことが見えてきました。

振り返りで頂いたひとつひとつの声は、今後の対話活動の展開に向けて得られた知見として真摯に受け止め、NUMO職員一同がここから気づきや学びを得て、よりよい対話活動に活かせるよう取組んで参ります。

### （2）対話の場のデザイン

- ▶ 寿都町と神恵内村では、参加されている会員・委員の皆さまに議論いただいた会則やルールの下に対話の場を進めてきたことや、第三者的なファシリテーターを進行役としたことが、話しやすい場づくりを下支えしたとの声を頂きました。対話の場の設置においては、場のデザインが重要と考えており、今後の地点においては、NUMOは対話の場の設置に当たって、対話の場のデザインの重要性について、関係住民及び地方公共団体と認識を共有しながら進めていきます。
- ▶ これまでNUMOは、2自治体とそれぞれ緊密に連携しながら事務局の役を担ってきました。NUMOが事務局を担うことは、会員・委員をはじめ地域の皆さまにも概ね受け入れられていると認識しています。
- ▶ ただし、賛否によらない多様な住民の皆さまの参加を実現するという観点からは、第三者的な中立的な方法での運営を望む声もあり、今後の地点において、運営のあり方を検討する際の課題として受け止めています。
- ▶ また、参加する委員の構成や選定方法に不満を感じるとの意見も多く寄せられており、今後の対話の場のデザインの際には、対話の場の関係者とこの点について十分留意して相談・検討することが必要と考えます。

### (3) 対話の場の運営支援

「対話の場」設置の際に大切にしてきた5つのポイントの観点から整理しました。

#### 観点①：参加者の意向を尊重しているか

- ▶ 寿都町と神恵内村では、参加者の意向の尊重は、対話の場や勉強会運営・支援の基本方針として取り組んできました。
- ▶ 寿都町では、対話の場でのご意見をもとに、町民の皆さまが参加する勉強会の設置を支援してきました。また、自治体と運営について相談しながら進めてきましたが、慎重な意見の専門家との対論など一部のテーマがまだ取り上げられていない点は課題として受け止めており、現在検討を進めているところです。神恵内村では、対話の場の委員から選出された委員による運営委員会において、事前に議題の検討などをすることがルール化しており、このことが地域の皆さまの意向を反映した運営・改善につながっているものと認識しています。

#### 観点②：(地層処分事業受入れの) 決定をする場ではない

- ▶ NUMOは、対話の場において文献調査の状況等について情報提供するとともに、会員・委員の皆さまの知りたい疑問、不安・心配事にお答えし、安全性への考え方や技術的側面、他国での状況など基礎的な情報提供を行ってきました。
- ▶ ご質問等への速やかな回答や一人ひとりの意見に耳を傾け、この意見を尊重する姿勢を基本として取り組んできましたが、対話の場が一部の方々のみが参加する勉強会としてやや離れた存在として認知されていたことなど、地域の皆さまへの広がり  
の点では課題を残したと受け止めています。

#### 観点③：公平性、中立性の担保

- ▶ 公平性の観点では、参加者一人ひとりのご意見をグループワークの最後に全体共有するなど、賛否によらず公平な取扱いを心掛けてきました。議題の決め方については、参加者の意向をもっと吸い上げるような場づくりをすべきとの意見もあり、今後の課題として受け止めています。
- ▶ 中立性の観点では、進行役に第三者のファシリテーターを配置したことは、意見の公平な取扱いや自由闊達な意見交換の場づくりに貢献できているものと認識しています。

#### 観点④：透明性、公開制の確保

- ▶ 参加者の意向に配慮しつつ、ライブ配信、地元 CATV、個別訪問等の情報公開を進めてきました。ただし、高齢の方を含む住民の皆さまにアクセスしていただけるような対話の場の公開のやり方や情報発信の方法などについては、今後の課題として受け止めています。

観点⑤：議論の内容の共有

- ▶ 議論の結果が、住民の皆さまに十分に伝わっていないとのご意見については、お伝えの方法など今後の課題として受け止めており、自治体当局と相談・検討することとしていきます。

(4) 地域の皆さまとのつながり

- ▶ 視察・見学やジオ・ラボ号などより詳しく知っていただく機会を提供できているものと認識しています。ただし、視察・見学を含めてより多くの町村民の皆さまに参加いただける機会を周知する取組については、今後の課題として受け止めています。

## 7. 第三者専門家からの助言・アドバイスの記録

「対話の場」振り返りの目的である「今後の文献調査自治体内外での地域対話の充実に向けた留意事項のとりまとめ」に向けて、留意事項をとりまとめた事務局案に基づいて、第三者専門家 7 名に対話方法や情報提供等の知見について、助言やアドバイスをいただきました。

### <第三者専門家による助言・アドバイス> ※敬称略

#### ○青木将幸（青木将幸ファシリテーター事務局）

- ・ 中立性はNUMOが担う限り難しい課題であり、それよりも留意すべきなのは、信頼感、住民の納得度を高めること。中立性を仕組みで担保したい場合は、NUMOは意思決定から切り離し、情報提供役に徹すればよい。
- ・ 参加者が住民の1%だとした場合、99%にどう拡げていくかが重要。1%の議論をどのように拡げられるかも設計に入れていくことが「場のデザイン」。参加できない人の声をいかにして聴くかも重要であり、住民の方々が楽しく参加する仕掛けやどうしても意見を言いたいひとの参加席を設ける等、工夫しながら開かれた場としていくことが大切。
- ・ どのひな形でもよいが、目的はトータルでどれだけ住民の方々の納得感が得られるかであり、そのための場のデザイン、参加者の構成、公開制等が問われる。

#### ○大島堅一（龍谷大学政策学部教授）

- ・ 国の基本方針における対話の場の位置づけは、非常に重要である。まとめの冒頭で紹介すべき。事業への住民意見の反映、地域の主体的な合意形成、多様な住民の参画、専門家の多様な意見などが、場の目的のクライテリアになるのではないか。
- ・ NUMOが提供してきた情報は多岐にわたっていたが、事業者が伝えたいことだけが記載され、多様性があるとは言えない。今後は資料を両論同じ分量で併記にするなど情報の見え方が変わってくるので検討してほしい。
- ・ 対話の場は基本となるひな形を作らずに、各ひな形を並列に扱ってはどうか。ステークホルダー型を基本とすることは、これまでの反省を踏まえていない。
- ・ ファシリテーターの選定は重要。さばくのではなく、あくまで中立的に、うまく意見を引き出せる人を選ぶべき。リスクコミュニケーションや原子力の専門家ではなく、あえて分野外の専門家が適任かもしれない。

○崎田裕子（ジャーナリスト/環境カウンセラー）

- ・ 対話の場を開く際の配慮は、次世代を巻き込む、周辺自治体に伝える、地域の将来への関心の高まりをどう支える、という3点にある。
- ・ 寿都、神恵内で対話の場の個性が違うことに触れていくことが重要。現在のまとめでは、両者を丸めた記載になっておりやや現実味がない。一方の良し悪しではなく、設置や運営に関する個性を示した上で、その違いが結果としてどのような違いになったのか、そのようなまとめとしてほしい。
- ・ 本まとめにおいて、今後の文献調査地域だけでなく、概要調査の際の対話活動に向けて、どう生かしていくかを考える視点を入れることも重要。  
住民の方々だけでなく、NUMO含めすべての関係者が学び合える場づくりを。
- ・ NUMOの対話活動で重視して欲しいのは賛成・慎重の方々だけでなく中間の方々。対話を重ねていかにこの方々の信頼を得ていけるかが重要。

○鈴木達治郎（長崎大学核兵器廃絶研究センター教授）

- ・ 国の基本方針の記載と同様、対話の場において、参加者の意見を聞くだけでなく、それを事業に反映するという目的を掲げれば、参加者の意識は変わるのではないかと結論ありきのアリバイ作りと思われなためにも、反映する仕組みを定義することが重要。
- ・ 概要調査に向けて、県レベルでも対話の場が必要。県が主催し、概要調査の受入れの是非を議論する場があってもよい。
- ・ 自治体が自分達で考えるための場として、場をデザイン・運営できるように支援する枠組みを設けてはどうか。交付金の使い道に、対話の場の予算に使えるようにしたり、都道府県に対しては対話の場設置のための新たに支援金制度を新設する等。その場合でも、対話の場の主体は都道府県・自治体で、NUMOや政府は運営に関与しないことで、対話の場が市民のためであることを担保することが重要。

○竹内真司（日本大学文理学部地球科学科教授）

- ・ 3.3「対話の場のデザイン」の留意事項の②「合意形成を目的にしているか」は国の基本方針と整合していない。そもそもここでの合意とは何かを明確にすることが必要ではないか。重要なことはいかに納得をしていただけるかということではないか。
- ・ 3.4「基本となるひな形」は1つの形にこだわらなくてもよいのではないかと。内容によって、開催方式やメンバーを変える方法も考えられるのではないかと。理想的にはタイプCの自由参加形式が前向きで自由闊達な意見交換ができてよいのではないかと。
- ・ 対話の場の結果の周知は、中身を理解してもらうことが目的なのか、周知を重ねることで信頼してもらうことが目的なのか、目的が何か、に応じて周知の仕方を工夫することが重要ではないかと。

○徳田太郎（NPO 法人日本ファシリテーション協会フェロー）

- ・ 対話の場は目的も重要ではあるが、それ以上に大切なのは、対話とは何かということに関係者および参加者間で明確にすること。そこが曖昧になっている。
- ・ 全体を通じて、議論という言葉があまり意識されずに用いられていると感じる。議論という語が相応しいのは、会則やルールなど、明確な決定事項を伴う部分。それ以外の箇所は、意見交換や対話などの表現が望ましい。
- ・ ステークホルダー型という表現はいかがか。地層処分事業の利害関係者には、国や規制庁、広域自治体等も含まれる。地域の団体の代表等のみをステークホルダーと呼ぶことは違和感があるため、指名型や推薦型としてはどうか。
- ・ 「地域のみなさまとのつながり」は、報告等の「出力」だけでなく、意見公募などの「入力」もあり得るのではないか。

○松岡俊二（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

- ・ 対話の場、文献調査は、地層処分についての社会的学習プロセスである。対話の場は、地域の人々だけが学ぶのではなく、期間中を通じて国・NUMO・専門家も学び合うことが極めて重要。
- ・ 対話の場の参加により、新しい知識を得たり、人と話をして学んでいく中で自分自身も変わっていくのではないか。人間にとって学ぶことは快感。その領域まで達すると、参加者する側も面白く感じるのではないか。
- ・ ひな形を示すことも重要であるが、地域に開かれた場であるかどうか非常に重要。寿都や神恵内のようなクローズな形では広がりには欠けるのでは。

## 8. インタビューの過程で生じた問題について

寿都町におけるインタビューでは、住民の方々への聞き取りの過程に問題があったとのご指摘を受けました。「対話の場」振り返りの事務局を担ったNUMOとして、第4回及び第5回の特定放射性廃棄物小委員会において、聞き取り調査にご協力を頂いた寿都町の住民の方々に対して、調査の過程での配慮が不十分であった点について深くお詫びを申し上げます。これらの経緯につきましては、下記からもご確認いただけます。

### ① 「対話の場の総括における寿都住民への聞き取り調査過程で生じた問題」

[https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku\\_gas/radioactive\\_waste/pdf/03\\_s03\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/radioactive_waste/pdf/03_s03_00.pdf)

(総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 特定放射性廃棄物小委員会 第3回 特定放射性廃棄物小委員会 参考資料3)

### ② 「第3回特定放射性廃棄物小委員会高野委員提出「意見書」に対する回答」

[https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku\\_gas/radioactive\\_waste/pdf/04\\_05\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/radioactive_waste/pdf/04_05_00.pdf)

(総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 特定放射性廃棄物小委員会 第4回 特定放射性廃棄物小委員会 資料5)

### ③ 「寿都町でのインタビューにご協力を頂いた町民の皆さまへ」

[https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku\\_gas/radioactive\\_waste/pdf/05\\_07\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/radioactive_waste/pdf/05_07_00.pdf)

(総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 特定放射性廃棄物小委員会 第5回 特定放射性廃棄物小委員会 資料7)

## ①「対話の場の総括における寿都住民への聞き取り調査過程で生じた問題」

### 意見書

対話の場の総括における寿都住民への聞き取り調査過程で生じた問題

2024年4月26日

高野聡

原子力発電環境整備機構（以下、NUMO）が進めている対話の場の総括における寿都住民への聞き取り調査の過程で問題点が発覚した。小委員会での発言時間ではとても指摘し尽くせるものではないため、ここに列挙する。この問題点は、寿都の住民から直接、当委員（高野）に報告があり、住民自身も問題だと感じた内容を整理したものである。

#### 1. 聞き取り役の選択肢の不提示および第三者専門家の陪席についての説明不足

聞き取り調査では、NUMO が住民に事前に日程調整をする際に、聞き取り役としてファシリテーター・調査会社調査員・NUMO 職員の3つの選択肢を提示し、第三者専門家の陪席が可能であることを住民に説明することが、本小委員会の委員の意見を総合し、決定された。しかし、初めて住民に日程調整を実施する際に、選択肢を提示せず、ファシリテーターによるグループインタビューしか提示していなかったことが、住民の証言で発覚した。当委員を含め何人かの委員が NUMO に事実確認を行い、改善要求を行ったことで、問題は解消されたかに思われた。

しかし勉強会メンバーへの日程調整の際に、一部のメンバーに対し、選択肢の提示がなく、グループインタビューのみ提示され、第三者専門家の陪席についても明確な説明がされていないのではないかという住民の証言を得た。この証言は、聞き取り調査後に得たので、結局、そのままグループインタビューが実施されてしまった。この証言が確かならば、本小委員会で決められた規則を破って、聞き取り調査が実施されたことになる。真相の究明が行われる必要がある。

#### 2. 第三者専門家の陪席を聞き取り対象の住民に確認させなかった

住民の中には、具体的な第三者専門家を希望・指定する者もいたが、聞き取りの際に、Zoomで第三者専門家が陪席していることを画面で示さず、住民が自ら希望した第三者専門家なのか確認させず、聞き取りを実施した。それにより住民が不安を抱きながら、聞き取りが進行してしまった。

#### 3. 事前告知のない第三者専門家の陪席

事前に2名の第三者専門家が陪席すると NUMO から説明を受けていたが、当日、聞き取り対象の住民の同意なく、もう1名出席した事実があった。それにより住民に、驚きと戸惑いを与えた。

4. 第三者専門家の陪席の要求が実現されなかったケースがある

住民が第三者専門家の陪席を要求すれば、それは最大限尊重されるべきだ。しかし住民が第三者専門家の陪席の希望を伝えたにもかかわらず、グループインタビューの日程が優先され、陪席が実現されなかったケースもあった。

5. ズームに正体不明の NUMO の参加者がいた

聞き取りの際、ズームで参加している人の中に「NUMO ROOM 4」という文字だけの参加者がいた。その者が誰なのか、住民への説明がなく、住民は監視されているような印象を受け、不信感を感じた。

6. 聞き取りの際に、事前に質問用紙を配布しなかった

住民への日程調整の際に、NUMO は聞き取り調査の質問事項の一部は見せたものの、事前に質問用紙を渡さなかった。事前配布を希望する住民がいたにもかかわらず、NUMO はそれを拒否した。住民が聞き取り調査に同意するか判断する際に、質問内容をすべて確認することは重要だと考える。それを実施しなかったことは、聞き取り調査の依頼において、誠実さに欠けていると判断される。また、質問用紙を事前に配布し、質問に対する答えを十分に考えてもらう時間を住民に提供することが、調査の質を確保する上でも、望ましい。その点でも問題である。

7. NUMO が聞き取り役の際に、住民の回答に介入した

対話の場の会員 1 人に対する聞き取り調査の際に、NUMO が聞き取り役となった回があった。その際、その会員は対話の場の疑問点などを話した。それに対し、聞き取り役の NUMO が弁明のように自ら話し出したことがあったとその会員から報告を受けた。これは聞き取り対象者の回答に影響を与えうるという点で、調査倫理上、非常に大きな問題である。

8. 退会会員への聞き取りの際に退会理由を尋ねなかった

NUMO が聞き取り調査の質問項目を決定する際に、小委員会委員は意見を求められた。当委員は、退会会員への聞き取りの際には、退会理由を尋ねることが、よりよい総括につながる旨指摘した。その意見を反映することに NUMO は同意した。しかし当委員は、退会会員 1 名から、実際の聞き取りでは退会の理由は尋ねられなかったと報告を受けた。

9. 聞き取り役の調査会社調査員が所属を明らかにしない

聞き取り役として調査会社の調査員を選んだ住民が、調査員に所属を明らかにするよう求めた。しかしそれを拒否されたため、住民は不信感を募らせた。住民が安心して聞き取り調査を受けられるための配慮と調査倫理が欠いていると判断される。

10. 「関与されていない町民の方」が施設の見学に行った人のみ

「関与されていない町民の方」の選定が、事実上、施設の見学に行った人のみであり、偏っている。公募や地区ごとの無作為抽出など様々な方法があるが、実施しなかった。施設見学を自ら希望し、NUMO の費用負担で行った人は施設見学を肯定的にとらえる可能性が高い。全体の回答数にバイアスが生じ、調査の公正さに否定的な影響を与えた可能性が高い。

## ②「第3回特定放射性廃棄物小委員会高野委員提出「意見書」に対する回答」

資料5

### 第3回特定放射性廃棄物小委員会高野委員提出「意見書」に対する回答

2024年6月17日  
原子力発電環境整備機構

「対話の場」振り返りでは、地域の皆さまのご協力を得て貴重な声をお聞かせ頂くことができました。寿都町、神恵内村の皆さまには、心より御礼申し上げます。

今回のインタビューや、特定放射性廃棄物小委員会にお届け頂いた「意見書」などを通じて、当機構は、聞き取りを行った全ての住民の方々が納得されていたかどうか、同意されていたかの点で、配慮が不十分であったと認識いたしました。

お届け頂いた「意見書」を踏まえ、改めて事実確認を行いました。当機構は、振り返りの事務局として特定放射性廃棄物小委員会での議論や第三者専門家の監修等を踏まえ、インタビューを進めて参りましたが、一部の事例において、ご協力頂いた方への配慮が十分とは言えない場面があったとの指摘も頂いており、インタビューのプロセス全体を通じて、改善を図りながら取組みを進めてきたところです。

当機構は、インタビューで頂いた貴重な声の数々を今後の寿都町・神恵内村での対話活動や、他地域での取組みにも最大限に活かすよう検討して参ります。今後は、地域の皆さまにご協力をお願いする際には、書面等で内容を確認する等の改善を図り、ご納得やご理解が得られるよう十分に配慮して進めて参ります。

#### 【意見項目と回答】

##### 1. 聞き取り役の選択肢の不提示および第三者専門家の陪席についての説明不足

###### (要旨)

勉強会メンバーへの日程調整の際に、一部のメンバーに対し、聞き取り役の選択肢の提示がなく、グループインタビューのみ提示され、第三者専門家の陪席についても明確な説明がされていないのではないかという住民の証言を得た。

###### (回答)

インタビューの聞き取り役の3択について、住民の方への協力依頼の際に、初期段階に1名の住民の方に丁寧に説明できていなかった事例があり、委員からのご指摘を受けて改めてご本人に説明を行い、希望する形でのインタビューを実施しました。

今回の意見書を受けて該当すると考えられる寿都町勉強会メンバーの方、8名に事実確認を行ったところ、選択肢の提示の記憶がない方が1名、説明を受けていないとされた方が1名確認できました。

事務局では、初期段階の事例の反省を踏まえ、住民の方々への協力依頼の際の共通のトークスクリプトを用意し、全ての方々に選択肢を示す方法を遵守し、ご確認を頂きながら丁寧に進めてきました。協力依頼の際には、おひとりおひとり今回の趣旨や目的、第三者専門家の陪席の希望や可能性をお伝えしご理解いただいた上で、調整してきました。

2. 第三者専門家の陪席を聞き取り対象の住民に確認させなかった

(要旨)

具体的な第三者専門家を希望・指定する者もいたが、聞き取りの際に、ズームで第三者専門家が陪席していることを画面で示さず、住民が自ら希望した第三者専門家なのか確認せず、聞き取りを実施した。

(回答)

インタビュー当日の開始前に、会場で全ての方に司会役の NUMO 職員が、陪席される第三者専門家の所属、氏名を必ずご紹介しご了解を得て進めてきました。

3. 事前告知のない第三者専門家の陪席

(要旨)

事前に 2 名の第三者専門家が陪席すると NUMO から説明を受けていたが、当日、聞き取り対象の住民の同意なく、もう 1 名出席した事実があった。

(回答)

インタビュー当日の開始前に、会場で司会役の NUMO 職員が、陪席される第三者専門家の所属、氏名を必ずご紹介し、仮に異議があれば申し出いただくタイミングを設けながらご了解を得て進めてきました。

4. 第三者専門家の陪席の要求が実現されなかったケースがある

(要旨)

住民が第三者専門家の陪席の希望を伝えたにもかかわらず、グループインタビューの日程が優先され、陪席が実現されなかったケースもあった。

(回答)

インタビューの日程調整は、第一に住民の方のご協力が可能な日時を優先し、グループ形式の場合は複数の方の日程を調整した上で、候補日をご提案差し上げご了解を得て進めてきました。第三者専門家には、確定したインタビュー日時に対して陪席が可能かを打診して調整してきました。また、インタビューの協力依頼時には、日程調整上必ずしも陪席の希望に添えない場合があることもお伝えしながら進めてきました。

5. ズームに正体不明の NUMO の参加者がいた

(要旨)

聞き取りの際、ズームで参加している人の中に「NUMO ROOM 4」という文字だけの参加者がいた。

(回答)

第三者専門家にオンラインでの陪席をお願いした際には、そのオンライン接続の管理のため事務局 (NUMO) が ZOOM にログインしていました。また、第三者専門家の陪席がない場合も、進行管理を行う事務局 (NUMO) が ZOOM に同席したケースがありますが、こちらもインタビュー開始前に、参加者の皆さまに画像を ON にして所属、氏名を自己紹介して進めてきました。

6. 聞き取りの際に、事前に質問用紙を配布しなかった

(要旨)

住民への日程調整の際に、NUMO は聞き取り調査の質問事項の一部は見せたものの、事前に質問用紙を渡さなかった。事前配布を希望する住民がいたにもかかわらず、NUMO はそれを拒否した。

(回答)

インタビューに協力してくださる方々には、可能な限り同一の条件にてお話を伺うため、例外なく全ての住民の皆さまに資料類は当日にお渡しし、その場限りの扱いとして回収させていただきました。

7. NUMO が聞き取り役の際に、住民の回答に介入した

(要旨)

対話の場の会員 1 人に対する聞き取り調査の際に、NUMO が聞き取り役となった回があった。その際、その会員は対話の場の疑問点などを話した。それに対し聞き取り役の NUMO が弁明のように自ら話し出したことがあったとその会員から報告を受けた。

(回答)

個別インタビューを希望され、NUMO 職員を聞き取り役として選択していただいたケースでは、職員と住民の方の一对一でお話を伺いましたが、その際には職員が質問票を読み上げて、その質問に対して自由に回答していただく形式で進めてきました。

なお、今回改めて職員による個別インタビューを実施した回について、第三者専門家による逐語記録の検証を依頼しましたが、回答に影響を与えるような介入的な発言は一切なく、公正に進められていたとのコメントを頂きました。

8. 退会会員への聞き取りの際に退会理由を尋ねなかった

(要旨)

退会会員への聞き取りの際には、退会理由を尋ねることが、よりよい総括につながると指摘した。しかし当委員は、退会会員 1 名から、実際の聞き取りでは退会の理由は尋ねられなかったと報告を受けた。

(回答)

インタビューは、第三者専門家の監修による質問票に沿って実施しており、退会会員を含め全ての方に共通する原則に従って進めてきました。

9. 聞き取り役の調査会社調査員が所属を明らかにしない

(要旨)

聞き取り役として調査会社の調査員を選んだ住民が、調査員に所属を明らかにするよう求めたが、拒否された。

(回答)

調査会社の名称は、第三者専門家のリスト同様、報告書に記載予定です。

10. 「関与されていない町民の方」が施設の見学に行った人のみ

(要旨)

「関与されていない町民の方」の選定が、事実上、施設の見学に行った人のみであり、偏っている。

(回答)

今回の振り返りは、限られた時間のなかでインタビューにご協力いただけることを趣旨として、本事業に対して一定の関心をお持ちの方で、かつ事務局からご連絡のつく方に関き取りの協力のお声がけを行いました。加えて、視察・見学は、賛否に関わりなくご参加いただいているものであり、この度は「対話の場」に参加していない立場からお話を伺うことができました。

以 上

### ③「寿都町でのインタビューにご協力を頂いた町民の皆さまへ」

資料 7

寿都町でのインタビューにご協力を頂いた町民の皆さまへ

2024年8月1日  
原子力発電環境整備機構

第4回特定放射性廃棄物小委員会（2024年6月17日）において、高野委員からご指摘のあった「聞き取り調査の過程で生じた問題等」について、当機構から「回答書」としてご報告いたしました。

今回、改めて一つひとつのご意見を再確認したところ、「住民の皆さまの意志を尊重しながら、安心した環境で聞き取りを進めるとしたルールに沿っていたかどうか」の点において、不誠実で不十分な面があったと認識を改めるに至りました。

また、「退会会員の方への退会理由を尋ねなかった件」について改めて確認したところ、インタビュー用の質問票を整える際に当該の項目の転記ミスがあり、最終的に質問項目として実施できなかったという事実が新たに判明いたしました。

インタビューにご協力を頂いた町民の皆さまには、経験・教訓を新たな文献調査地域に生かすとの振り返りの目的に十分ご納得のいかないまま、忸怩たる思いのなかで協力して下さったにもかかわらず、進め方等に不備を生じさせてしまい、調査実施主体の責任として、深くお詫びを申し上げます。

今後、地域の皆さまにご協力をお願いする際は、書面等で内容を確認する等の改善を図るとともに、地域の皆さまのご不安やご懸念にしっかりと寄り添いながら、十分に配慮します。

今回頂いた貴重なご意見の数々を今後の寿都町、神恵内村での対話活動や他地域での取組みにも生かして参ります。

<再確認した主なご意見と回答>

1. インタビュー役の選択肢の不提示について

(回答)

前回、意見書を受けて事実確認を行った際に、選択肢の提示の記憶がない方が1名、説明を受けていないとされた方が1名確認できました。NUMO はアポ取りの際に、選択肢の提示を行ったとの回答を行いました。十分に内容をお伝えできていない結果となった点において、調査実施主体として説明不足でした。

2. 第三者専門家の陪席についての確認や説明不足について

(回答)

前回、インタビュー時の第三者専門家の陪席の確認や事前告知のない専門家の陪席について、意見書を受けて事実確認を行った際に、NUMO は事前確認やインタビュー当日も説明を行ったと回答しました。十分に内容をお伝えできていない結果となった点において、調査実施主体として説明不足であり、ご意見を寄せて頂いた住民の方には、深く陳謝申し上げます。

3. インタビュー時の住民の回答への介入について

(回答)

前回、インタビュー時に NUMO による介入があった点について、職員が質問票を読み上げて、その質問に対して自由に回答していただく形式を進めてきたと回答しました。職員の応答が住民の方に介入的に感じさせてしまった点において、実施主体として誠に配慮が不十分であり、ご意見を寄せて頂いた住民の方には、深く陳謝申し上げます。

4. 退会理由を尋ねなかったことについて

(回答)

改めて確認したところ、インタビュー用の質問票を整える際に当該の項目の転記ミスがあり、最終的に質問項目として実施できておらず、調査実施主体として確認不足でした。

以 上



